

取付説明書

●このたびは、東洋エクステリア製品をお買いあげいただきまして誠にありがとうございます。

<施工の前に>

- ①正しく施工、組付けをしていただくために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- ②設置場所の確認
 - ①施工場所に寸法的に正しく納まるか確認してください。
 - ②主屋の屋根からの雪の落下を直接受けない位置かどうか確認してください。
 - ③開閉時に扉が公道(道路)等へ飛び出さない位置かどうか確認してください。
- ③規格表、梱包明細で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。
- ④組立、施工途中では
 - ①ボルト、ビスは弊社純正品の規定本数を確実に締付け固定してください。
 - ②取付説明書の順序通り組付けてください。製品の強度等、性能を低下させる場合が発生します。
 - ③アルミ製品と銅板やラス等の異種金属が接触しないようにしてください。
- ⑤基礎工事について
 - ①基礎寸法は、取付説明書の通りの寸法としてください。地盤の種類によっては、倒壊の危険性が発生します。
 - ②基礎コンクリートには、塩分を含む砂、および塩素系のモルタル混和剤を使用しないでください。
- ⑥電気配線工事について
 - ①電線の埋設工事、配線作業に関しては、電気工事店の有資格者に依頼してください。
 - ②門灯は第3種接地工事を行なってください。
 - ③AC100V配線と小勢力配線が接触しないように電線管による隔離をしてください。
- ⑦製品の改造は絶対に行わないでください。
- ⑧施工完了後は
 - ①ボルト、ビス等に緩みがないか確認してください。
 - ②施工中の汚れは取り除き、誤ってつけたキズは、補修塗装をしてください。
- ⑨施工終了後、各梱包に付属している全ての説明書を施主様にお渡しください。

<施主様へ>

使用前に必ず<取扱説明書>をお読みください。

1.梱包明細表

①機能付門柱(右・左)

名 称	員 数
機能付門柱本体	1
前後スパーサー	6
上下スパーサー	5
隙間隠し板	1
隙間隠し板取付タッピング φ4×10トラス	7
持送りに上(右・左)	各1
オートクローザー用持送り下(右・左)	各1
持送り取付歯付座金 M12用	6
持送り取付六角ボルト M12×40	6
カメラ付ドアホン子機	1
カメラ付ドアホン親機	1
シークレットキー(テンキー)	1
電気錠操作ユニット	1
キーリーダーシステム制御器	1
キーリーダーヘッド	1
2線式アダプターユニット	1
カメラ付ドアホン子機止水パッキン	1
シークレットキー(テンキー)止水パッキン	1
キーリーダーヘッド止水パッキン	1
キーリーダーヘッド接続ケーブル	1
キーリーダーシステム配線コネクタ	1
落とし棒受け(両開き用)	1
落とし棒受け(片開き用)	1
アンカー棒 φ9×150	1
カメラ付ドアホン子機取付ネジ M4×20ナベ	2
テンキー取付ネジ M4×20ナベ	4
キーリーダーヘッド取付ネジ M4×20ナベ	2
2線式アダプターユニット取付ビス M4×12サラ	3
門柱裏ブタ取付ビス φ4×10トラス	8
カメラ付ドアホン取扱説明書	1
電気錠操作ユニット取扱説明書	1
キーリーダーシステム取扱説明書	1

②中間門柱(右・左)

名 称	員 数
中間門柱本体	1
前後スパーサー	6
上下スパーサー	5
持送りに上(右・左)	各1
持送り下(右・左)	各1
持送り取付歯付座金 M12用	6
持送り取付六角ボルト M12×40	6
カメラ付ドアホン子機	1
カメラ付ドアホン親機	1
シークレットキー(テンキー)	1
電気錠操作ユニット	1
キーリーダーシステム制御器	1

②つづき

名 称	員 数
キーリーダーヘッド	1
2線式アダプターユニット	1
カメラ付ドアホン子機止水パッキン	1
シークレットキー(テンキー)止水パッキン	1
キーリーダーヘッド止水パッキン	1
2線式アダプター・テンキー接続コード	1
キーリーダーヘッド接続ケーブル	1
キーリーダーシステム配線コネクタ	1
落とし棒受け(両開き用)	1
落とし棒受け(片開き用)	2
アンカー棒 φ9×150	1
カメラ付ドアホン子機取付ネジ M4×20ナベ	2
テンキー取付ネジ M4×20ナベ	4
キーリーダーヘッド取付ネジ M4×20ナベ	2
2線式アダプターユニット取付ビス M4×12サラ	3
門柱裏ブタ取付ビス φ4×10トラス	8
カメラ付ドアホン取扱説明書	1
電気錠操作ユニット取扱説明書	1
キーリーダーシステム取扱説明書	1

③標準門柱(右・左)

名 称	員 数
標準門柱本体	1
前後スパーサー	6
上下スパーサー	5
隙間隠し板	1
隙間隠し板取付タッピング φ4×10トラス	7
落とし棒受け(片開き用)	1
持送りに上(右・左)	各1
持送り下(右・左)	各1
持送り取付歯付座金 M12用	6
持送り取付六角ボルト M12×40	6
門柱裏ブタ取付ビス φ4×10トラス	8

④ろく屋根用機能付門柱(右・左)

名 称	員 数
ろく屋根用機能付門柱本体	1
前後スパーサー	6
上下スパーサー	5
ろく屋根組付六角ボルト M10×35	4
ろく屋根組付バネ座金 M10用	4
接着剤	1
門柱上台座	1
門柱上台座取付タッピング φ4×30サラ	4
SWソケット	1
門灯セット	1
門灯セット取付ビス φ4×10サラ	4
隙間隠し板	1

④つづき

名 称	員 数
隙間隠し板取付タッピング φ4×10トラス	7
持送り上(右・左)	各1
オートクローザー用持送り下(右・左)	各1
持送り取付歯付座金 M12用	6
持送り取付六角ボルト M12×40	6
カメラ付ドアホン子機	1
カメラ付ドアホン親機	1
シークレットキー(テンキー)	1
電気錠操作ユニット	1
キーリーダーシステム制御器	1
キーリーダーヘッド	1
2線式アダプターユニット	1
カメラ付ドアホン子機止水パッキン	1
シークレットキー(テンキー)止水パッキン	1
キーリーダーヘッド止水パッキン	1
キーリーダーヘッド接続ケーブル	1
キーリーダーシステム配線コネクター	1
落し棒受け(両開き用)	1
落し棒受け(片開き用)	1
ろく屋根吊輪交換六角ボルト M12×20	2
ろく屋根吊輪交換平座金 M12用	2
アンカー棒 φ9×150	1
カメラ付ドアホン子機取付ネジ M4×20ナベ	2
テンキー取付ネジ M4×20ナベ	4
キーリーダーヘッド取付ネジ M4×20ナベ	2
2線式アダプターユニット取付ビス M4×12サラ	3
門柱裏ブタ取付ビス φ4×10トラス	8
カメラ付ドアホン取扱説明書	1
電気錠操作ユニット取扱説明書	1
キーリーダーシステム取扱説明書	1

⑤ろく屋根用中間門柱(右・左)

名 称	員 数
ろく屋根用中間門柱本体	1
前後スペーサー	6
上下スペーサー	5
ろく屋根組付六角ボルト M10×35	4
ろく屋根組付バネ座金 M10用	4
門柱上台座	1
門柱上台座取付タッピング φ4×40サラ	4
門灯セット	1
門灯セット取付ビス φ4×10サラ	4
持送り上(右・左)	各1
持送り下(右・左)	各1
持送り取付歯付座金 M12用	6
持送り取付六角ボルト M12×40	6
カメラ付ドアホン子機	1

⑤つづき

名 称	員 数
カメラ付ドアホン親機	1
シークレットキー(テンキー)	1
電気錠操作ユニット	1
キーリーダーシステム制御器	1
キーリーダーヘッド	1
2線式アダプターユニット	1
カメラ付ドアホン子機止水パッキン	1
シークレットキー(テンキー)止水パッキン	1
キーリーダーヘッド止水パッキン	1
2線式アダプター・テンキー接続コード	1
キーリーダーヘッド接続ケーブル	1
キーリーダーシステム配線コネクター	1
落し棒受け(両開き用)	1
落し棒受け(片開き用)	2
ろく屋根吊輪交換六角ボルト M12×20	2
ろく屋根吊輪交換平座金 M12用	2
アンカー棒 φ9×150	1
カメラ付ドアホン子機取付ネジ M4×20ナベ	2
テンキー取付ネジ M4×20ナベ	4
キーリーダーヘッド取付ネジ M4×20ナベ	2
2線式アダプターユニット取付ビス M4×12サラ	3
門柱裏ブタ取付ビス φ4×10トラス	8
カメラ付ドアホン取扱説明書	1
電気錠操作ユニット取扱説明書	1
キーリーダーシステム取扱説明書	1

⑥ろく屋根用標準門柱(右・左)

名 称	員 数
ろく屋根用標準門柱本体	1
前後スペーサー	6
上下スペーサー	5
ろく屋根組付六角ボルト M10×35	4
ろく屋根組付バネ座金 M10用	4
接着剤	1
門柱上台座	1
門柱上台座取付タッピング φ4×40サラ	4
SWソケット	1
門灯セット	1
門灯セット取付ビス φ4×10サラ	4
隙間隠し板	1
隙間隠し板取付タッピング φ4×10トラス	7
持送り上(右・左)	各1
オートクローザー用持送り下(右・左)	各1
持送り取付歯付座金 M12用	6
持送り取付六角ボルト M12×40	6
門柱裏ブタ取付ビス φ4×10トラス	8

1.つづき

⑦袖扉・掛扉(右・左)(オートクローザー・電気錠掛付)

名 称	員 数
扉本体	1
スプリングセット棒	2
スプリングセットピン	1
オートクローザー用取付説明書	1
RFキー(電気錠キー)	3
通電金具取付ネジ M4×12サラ	4
取付説明書(A157)	1
取扱説明書(UA004)	1
オートクローザーキャップ(下)	1

⑧標準扉・受扉(右・左)(電気錠受付)

名 称	員 数
扉本体	1

⑨ろく屋根

名 称	員 数
ろく屋根本体	1

⑩アンカーセット袖扉付柱用

名 称	員 数
アンカーボルト W1／2×300	12
アンカーボルト用ナット W1／2用	12
アンカー位置出し板	3
連結材1	2
連結材2	2
連結材3	2
連結材4	2
連結材組付六角ボルト M8×16	8

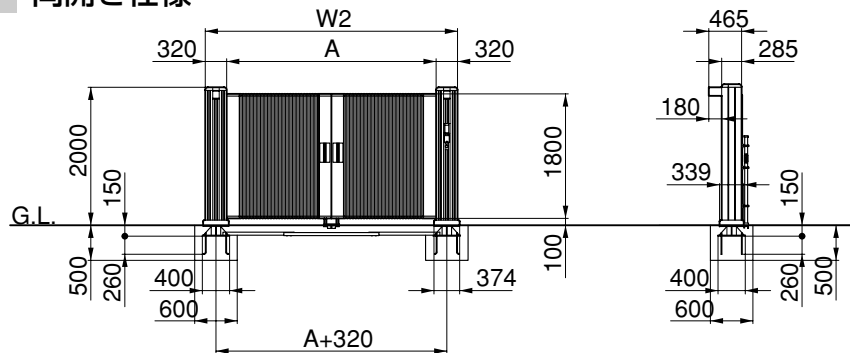
⑪アンカーセット両開き柱用

名 称	員 数
アンカーボルト W1／2×300	8
アンカーボルト用ナット W1／2用	8
アンカー位置出し板	2
連結材2	2
連結材3	2
連結材4	2
連結材組付六角ボルト M8×16	8

※電気錠操作ユニットを含む梱包明細には、停電時用「予備電源」を同梱しています。

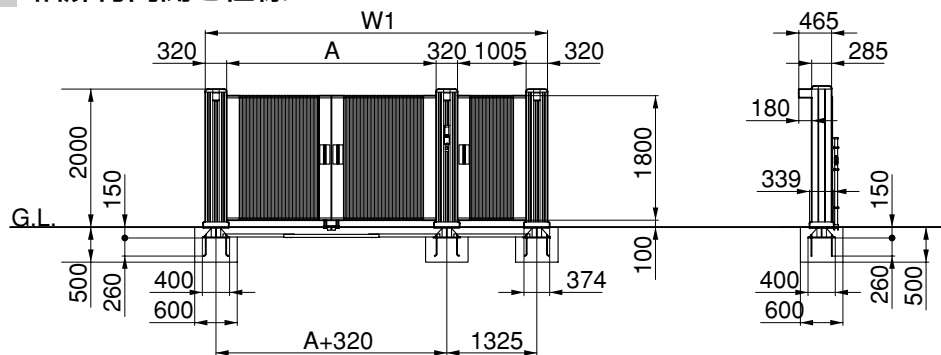
2. 姿図および基本寸法図

2-1 両開き仕様

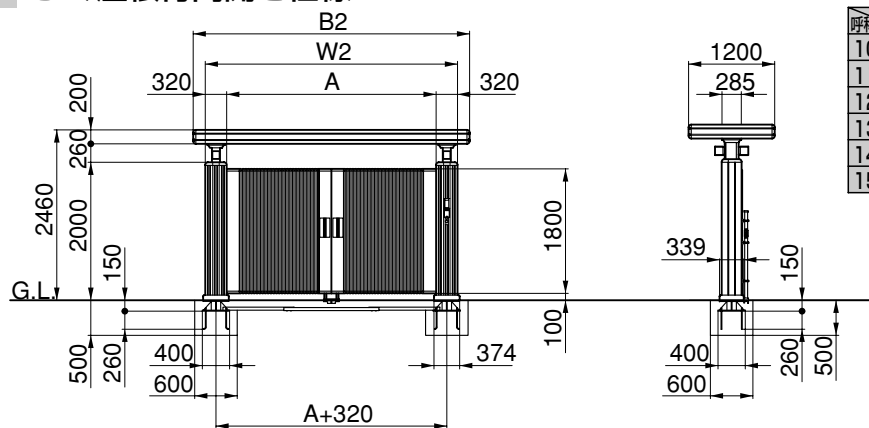


呼称	記号	W ₁	W ₂	A
10-18		3970	2645	2005
11-18		4170	2845	2205
12-18		4370	3045	2405
13-18		4570	3245	2605
14-18		4770	3445	2805
15-18		4970	3645	3005

2-2 袖扉付両開き仕様

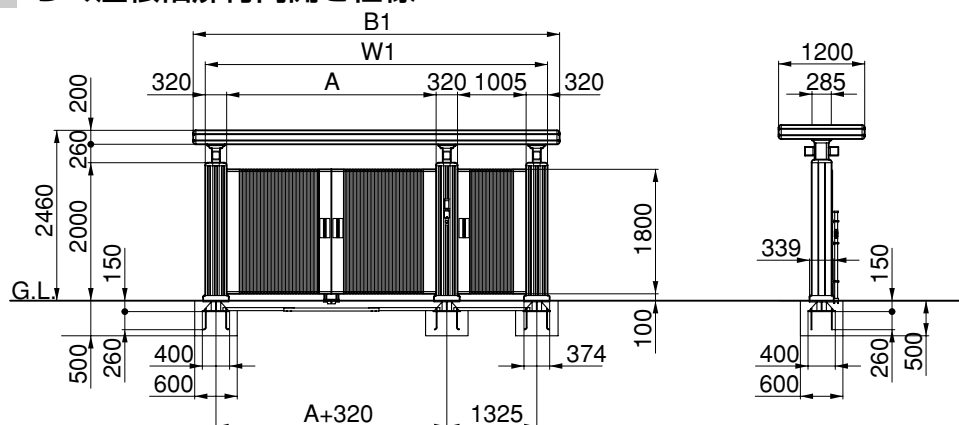


2-3 ろく屋根付両開き仕様



呼称	記号	W ₁	W ₂	A	B ₁	B ₂
10-18		3970	2645	2005	4290	2965
11-18		4170	2845	2205	4490	3165
12-18		4370	3045	2405	4690	3365
13-18		4570	3245	2605	4890	3565
14-18		4770	3445	2805	5090	3765
15-18		4970	3645	3005	5290	3965

2-4 ろく屋根袖扉付両開き仕様



3.使用ユニットの名称および組み合わせ

3-1 両開き仕様

	右勝手の場合	左勝手の場合
使用ユニット		
組み合わせ		

3-2 袖扉付両開き仕様

	右勝手の場合	左勝手の場合
使用ユニット		
組み合わせ		

3-3 ろく屋根付両開き仕様

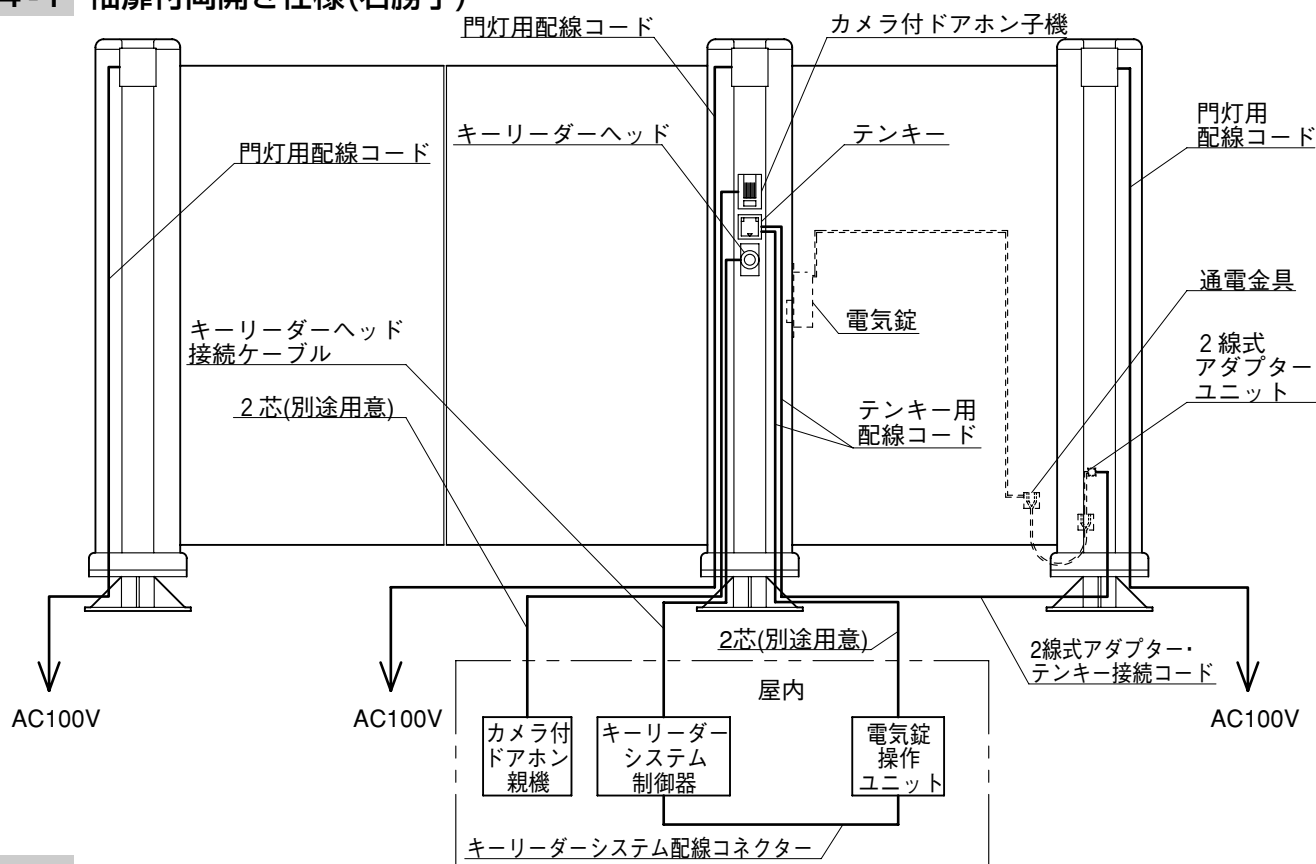
	右勝手の場合	左勝手の場合
使用ユニット		
組み合わせ		

3-4 ろく屋根袖扉付両開き仕様

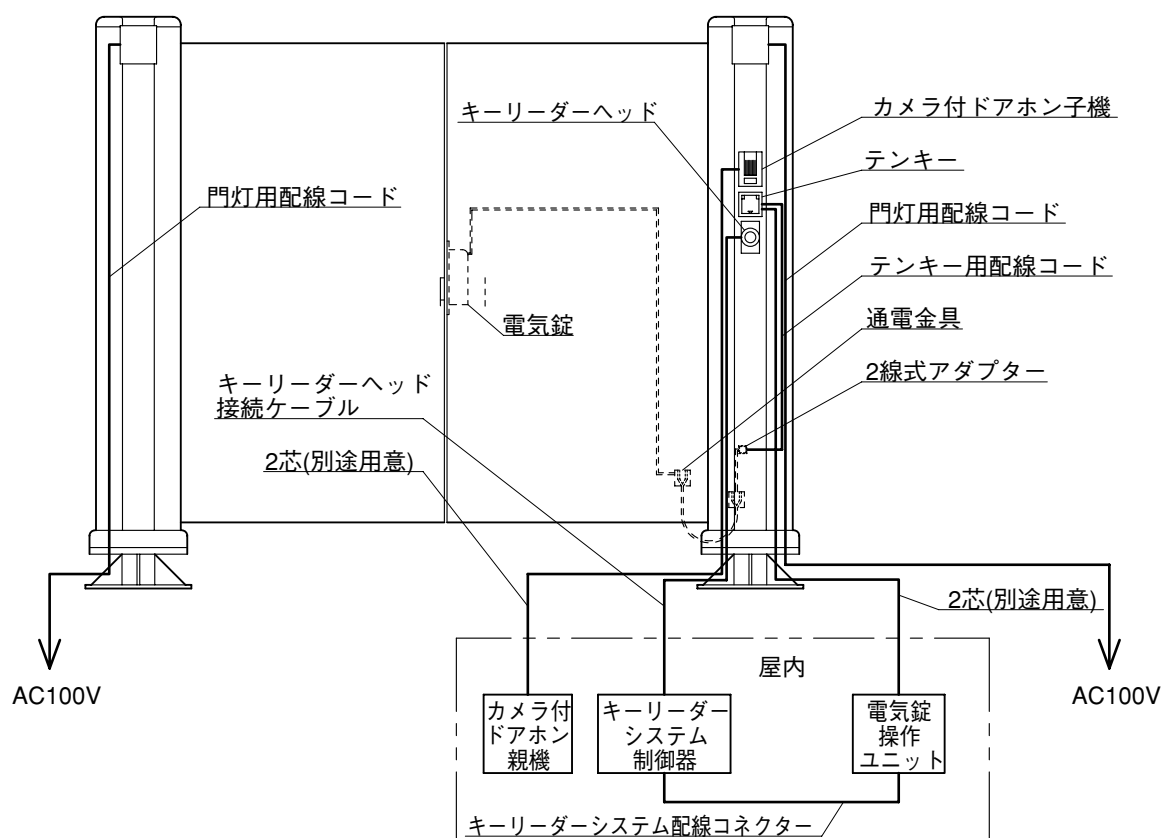
	右勝手の場合	左勝手の場合
使用ユニット		
組み合わせ		

4.配線図

4-1 袖扉付両開き仕様(右勝手)

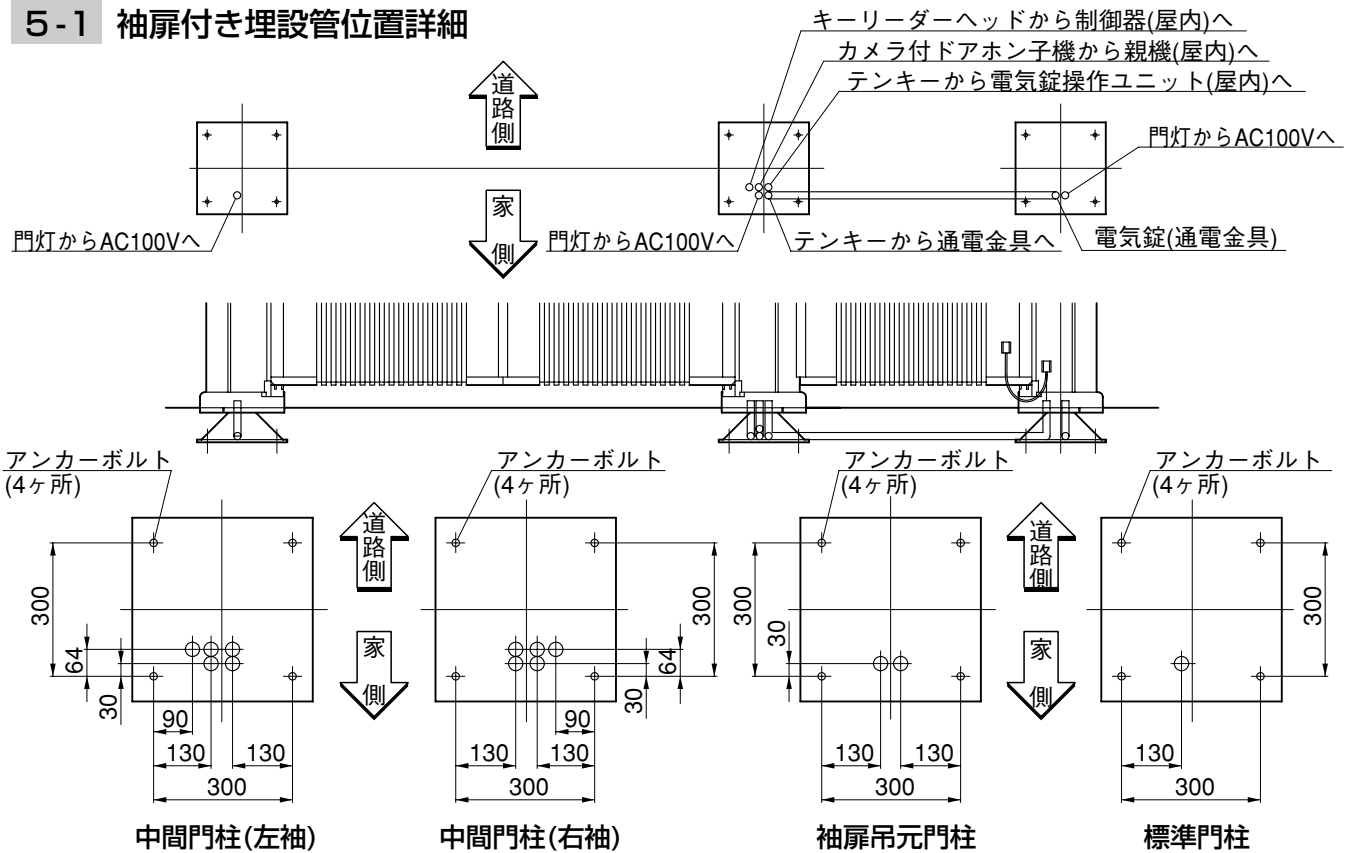


4-2 両開き仕様



5.埋設管位置およびアンカーボルト位置

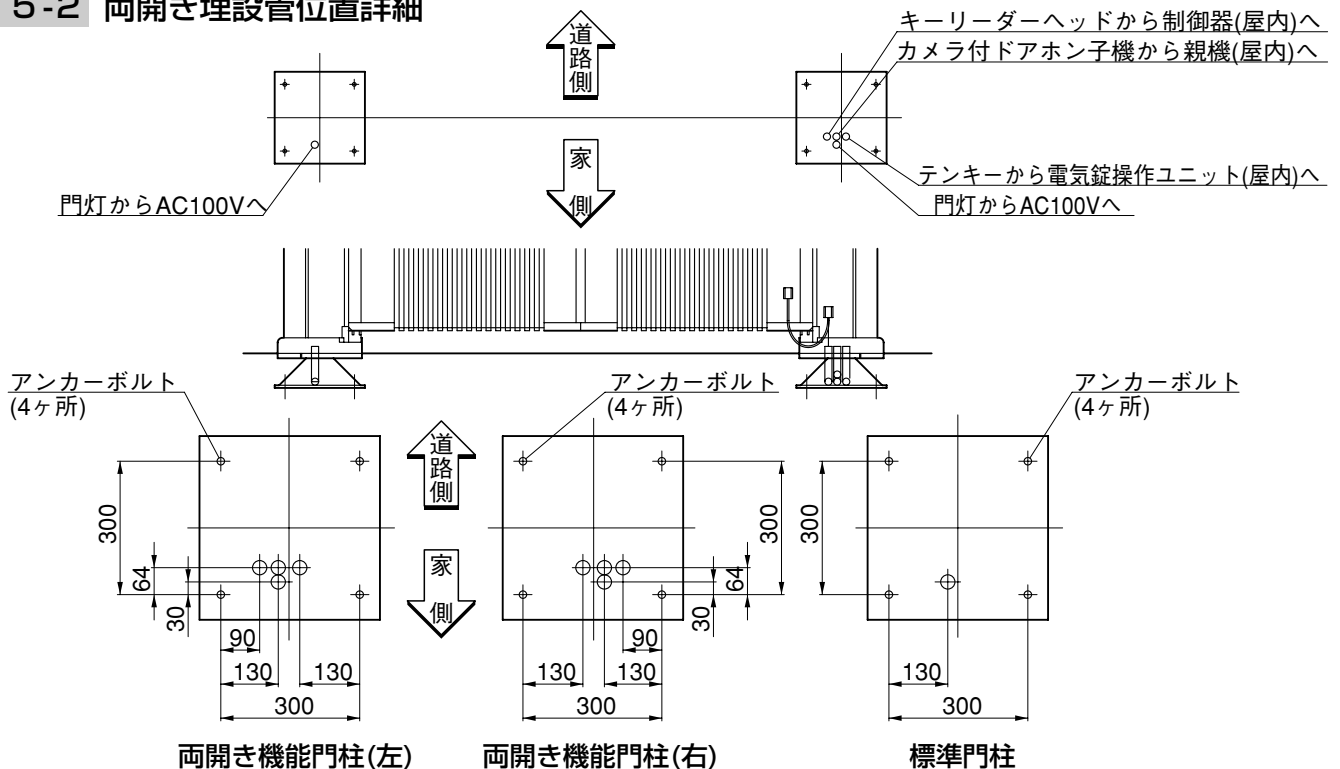
5-1 袖扉付き埋設管位置詳細



<注 意>

- 埋設管はG.L.から40mm以下で立ち上げてください。

5-2 両開き埋設管位置詳細

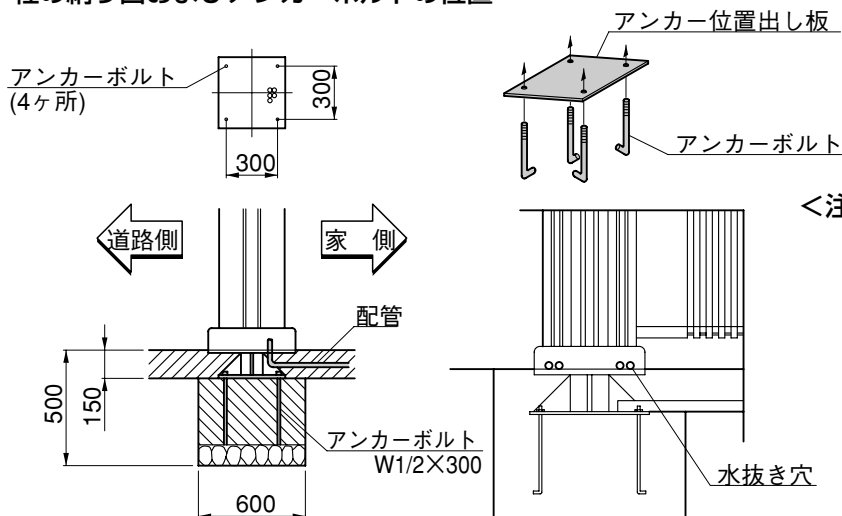


<注 意>

- 埋設管はG.L.から40mm以下で立ち上げてください。

6.柱の施工

柱の納り図およびアンカーボルトの位置



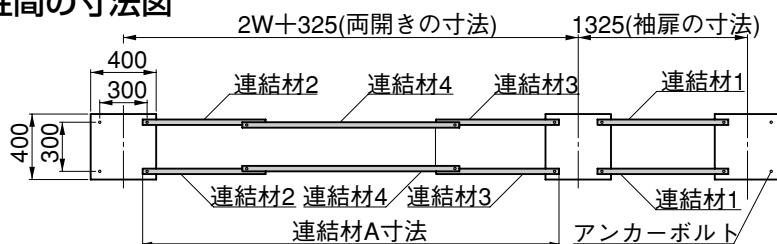
- ① アンカーボルトは300mm間で施工します。
(アンカー位置出し板を使用しますと、簡単に位置出しができます。)

<注意>

- 門柱には、門灯・インターホンなどの配線がありますので、門柱施工時は前述の埋設位置に従い、配管も一緒に施工してください。
- ろく屋根付きには水抜き穴があります。施工の際、水抜き穴をふさがないようにしてください。

7.連結材の取付け

7-1 門柱間の寸法図



※図は上から見た場合です。

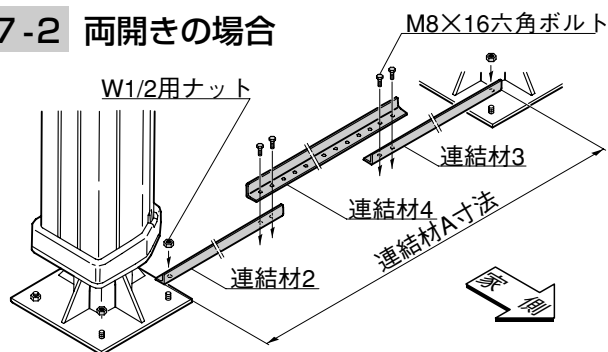
連結材A寸法表

W寸法	A寸法
10+10	2125
11+11	2325
12+12	2525
13+13	2725
14+14	2925
15+15	3125

連結材の寸法

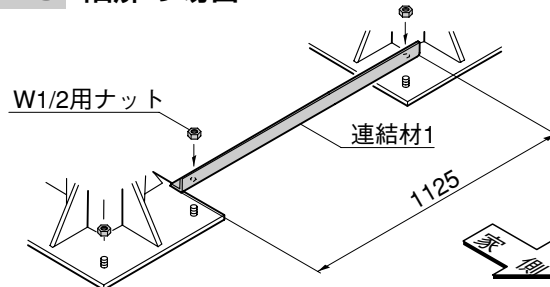
連結材1	連結材2	連結材3	連結材4

7-2 両開きの場合



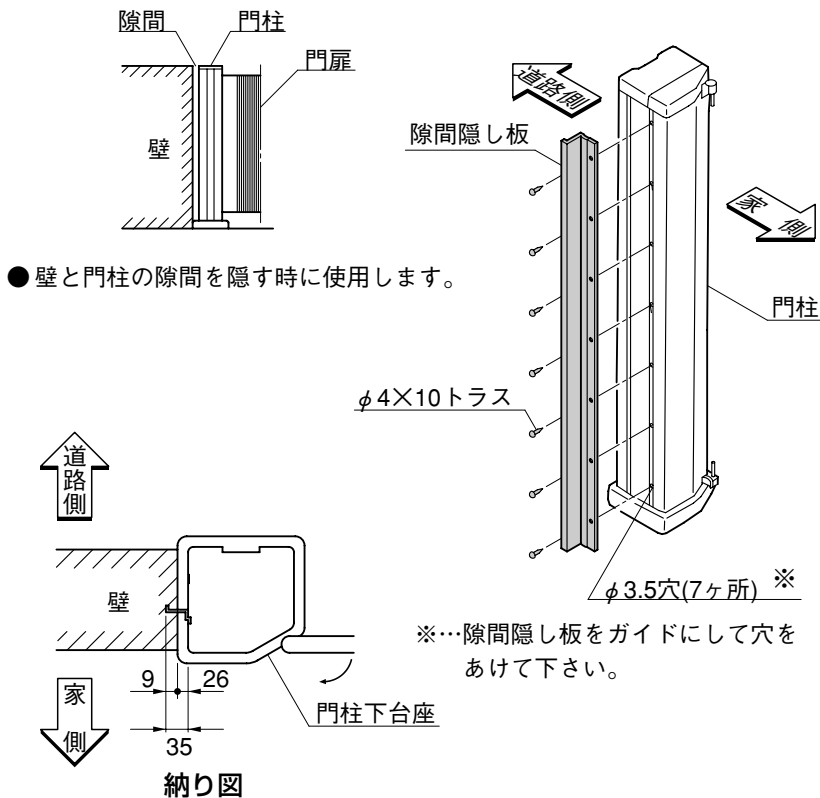
- ① 適応サイズのA寸法になるように連結材2・3・4をそれぞれ連結します。
(7-1の連結材A寸法表を参照。)

7-3 袖扉の場合



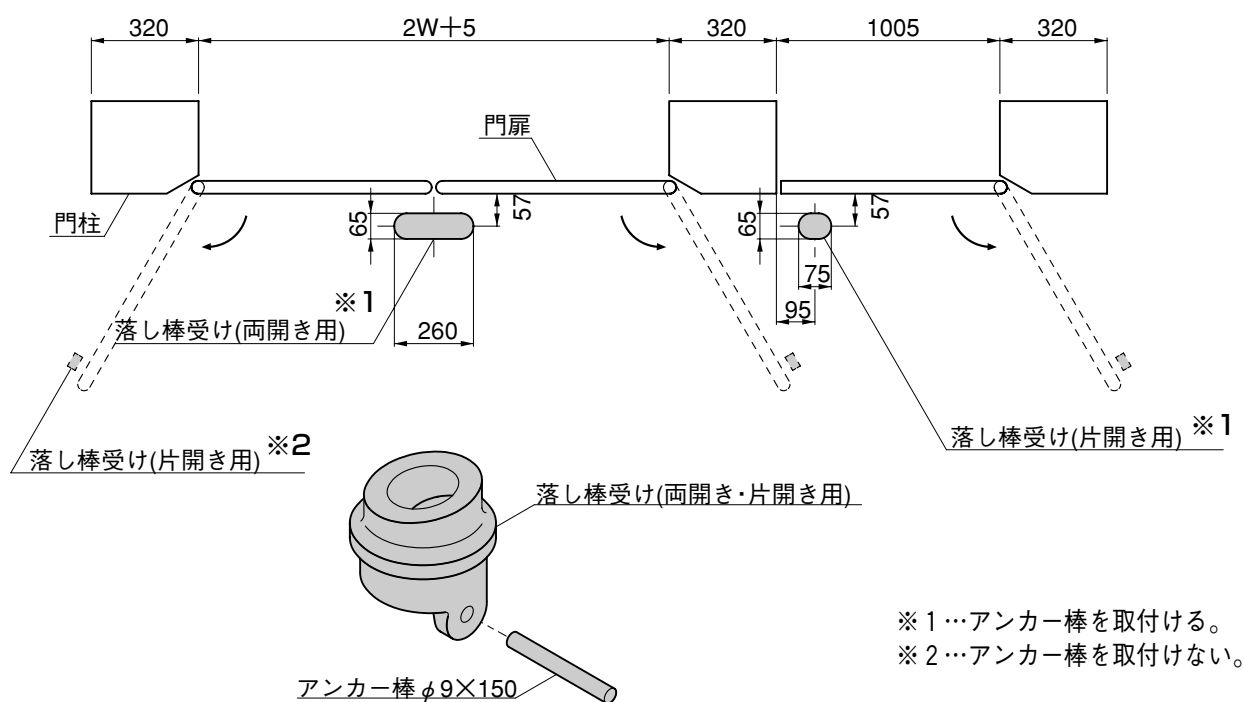
- ① 連結材1をアンカーボルトに差し込み、W1/2用ナットを締め付けます。

8.隙間隠し板の取付け



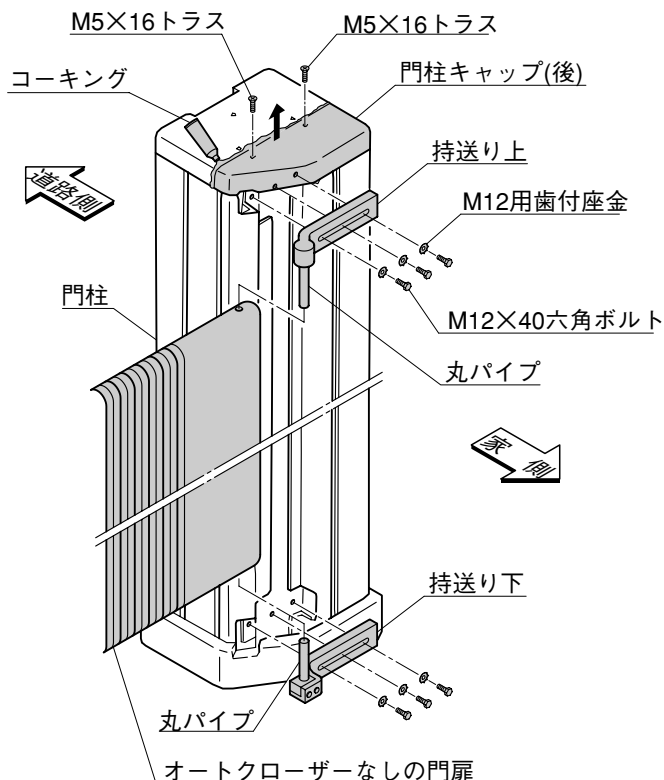
- ① 隙間隠し板をガイドにし、門柱にφ3.5の穴を7ヶ所あけてください。
- ② 隙間隠し板を門柱にφ4×10トラスで取付けてください。

9.落し棒受けの施工



10. 門扉の取付け

10-1 オートクローザー付ではない門扉の場合

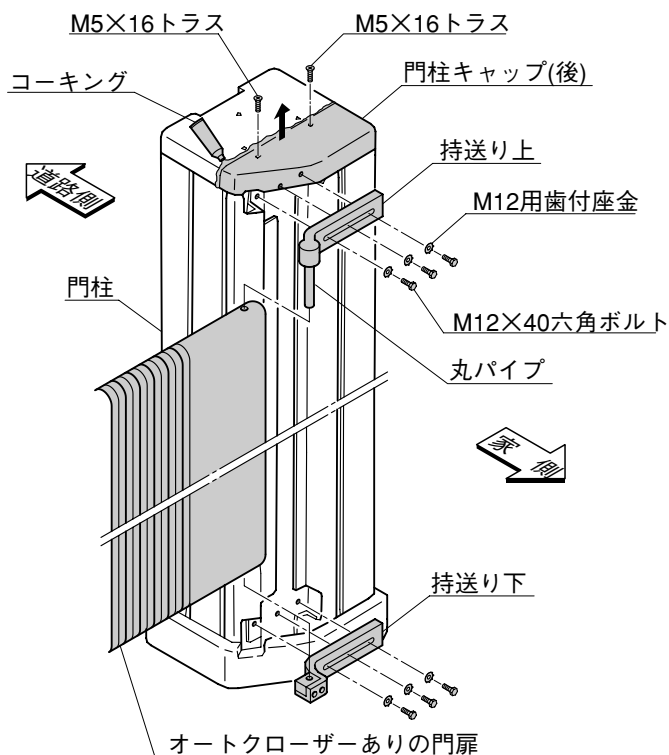


- ❶ 門柱キャップ(後)を取りはずしてください。
- ❷ 持送り下をM12×40六角ボルトで仮止めしてください。
- ❸ 持送り上・下の丸パイプを門扉の受け穴に差し込んでください。

<注意>

- 持送り下に丸パイプが付いているか確認してください。
- ❹ 持送り上・下を門柱にM12×40六角ボルトでしっかりと固定してください。
- ❺ 門柱キャップ合せ部にコーキング処理をしてください。

10-2 オートクローザー付の門扉の場合



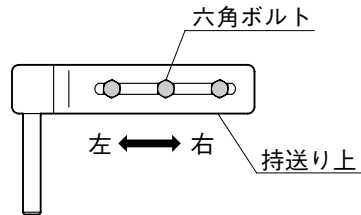
- ❶ 門柱キャップ(後)を取りはずしてください。
- ❷ 持送り下をM12×40六角ボルトで仮止めしてください。
- ❸ 持送り下の受け穴に門扉オートクローザーの下部を差し込んでください。
- ❹ 持送り上の丸パイプを門扉の穴に差し込んでください。

<注意>

- 持送り下に丸パイプが付いていないか確認してください。
- ❺ 持送り上・下を門柱にM12×40六角ボルトでしっかりと固定してください。
(オートクローザー付門扉を取付ける場合は、門扉を閉めた状態で持送りに取付けると、より簡単に取付けできます。)
- ❻ 門柱キャップ合せ部にコーキング処理をしてください。

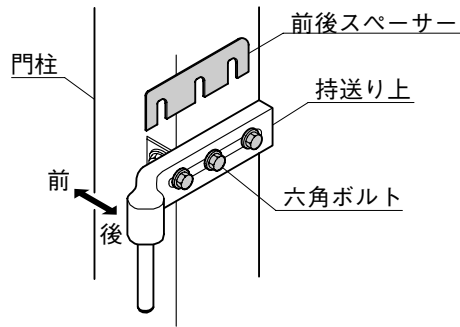
11. 門扉の調整方法

11-1 間口方向の調整



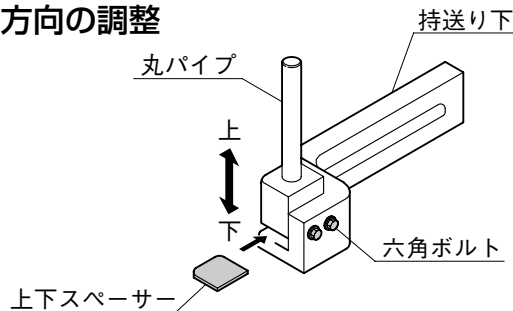
- ① 持送りの六角ボルトをゆるめ、持送りを左右に動かしてください。

11-2 内外方向の調整



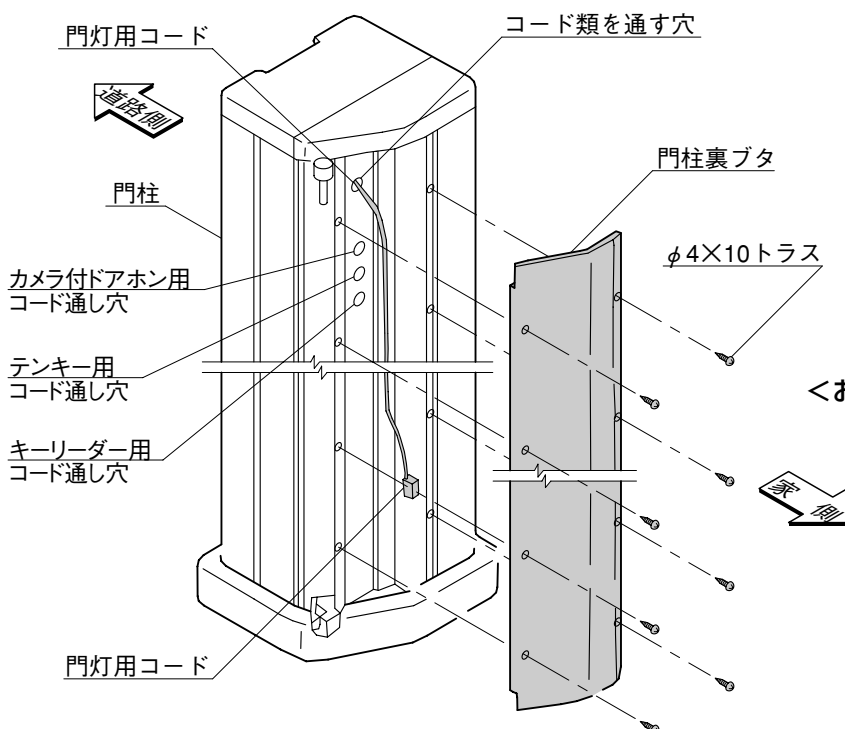
- ① 持送りの六角ボルトをゆるめ、前後スペーサーを門柱と持送りの間にに入れてください。

11-3 上下方向の調整



- ① 持送り下の六角ボルトをゆるめ、上下スペーサーを丸パイプと持送り下の間にに入れてください。

12. 門柱裏ブタの取付け

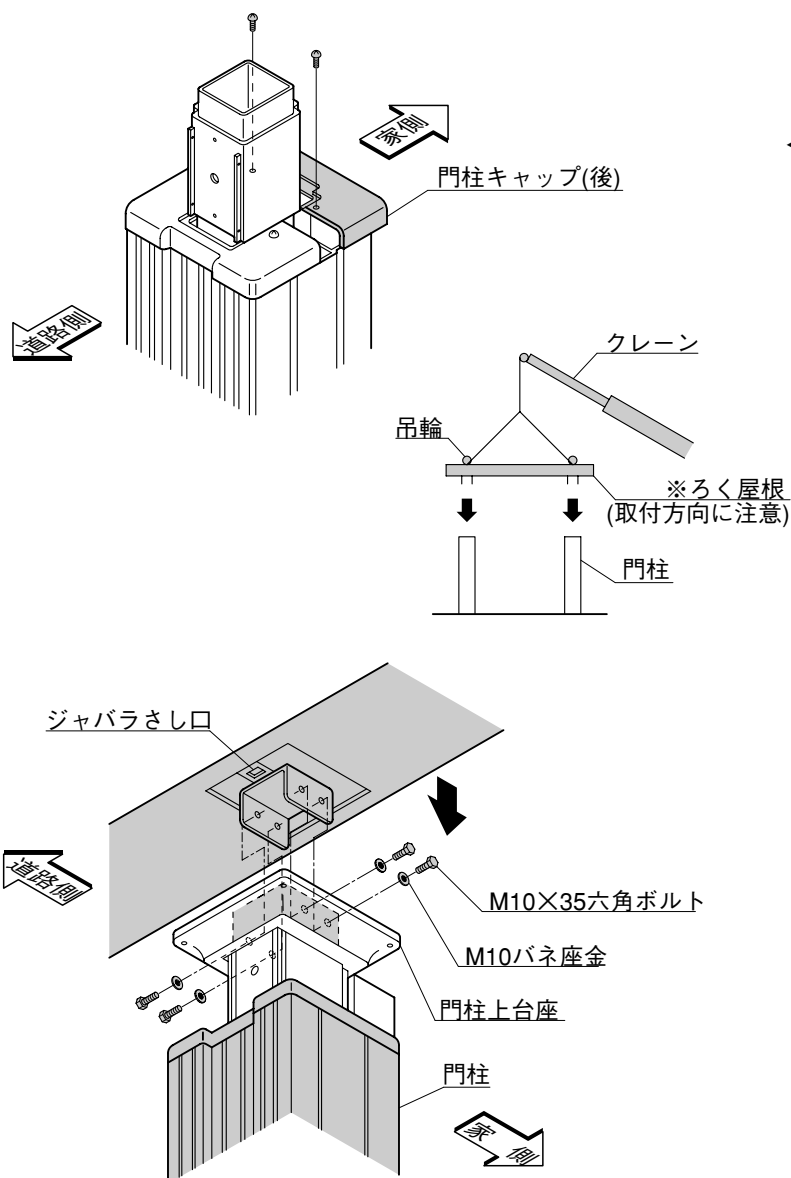


- ① 門柱裏ブタは施工完了後(門扉の調整、配線工事終了後) $\phi 4 \times 10$ トラスで門柱に取付けてください。

<お願い>

※ カメラ付ドアホン子機、キーリーダーヘッドおよびシークレットキー(テンキー)を取付けるとき、コード類は左図の様にコード類を通す穴をご利用ください。

13.ろく屋根の取付け



① 門柱キャップ(後)を取はずしてください。

② 門柱に門柱上台座を差し込んでください。

<注意>

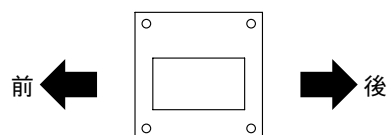
● ろく屋根には家側、道路側の方向がありますので取付けには注意してください。

③ ジャバラさし口がある方が道路側を向いているか、確認してください。

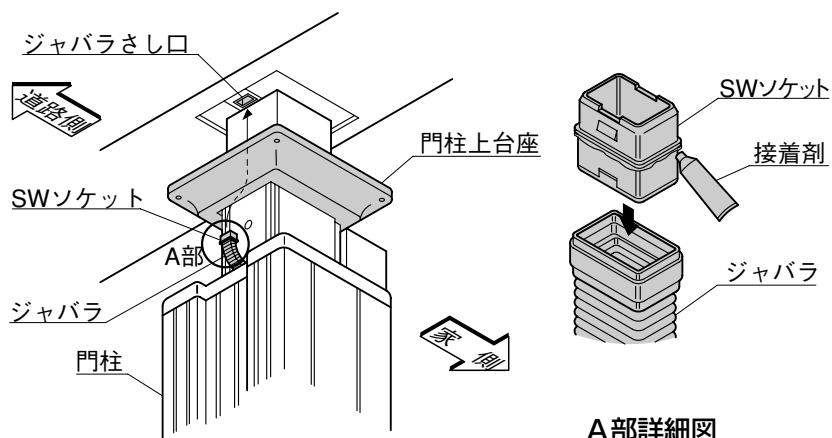
④ ろく屋根をクレーンで吊り上げ門柱の上に乗せてください。

⑤ 門柱にろく屋根をM10×35六角ボルトで取付けてください。

⑥ ろく屋根取付け後、吊輪をM12×20六角およびM12用平座金に取り替えてください。



14.ジャバラの取付け



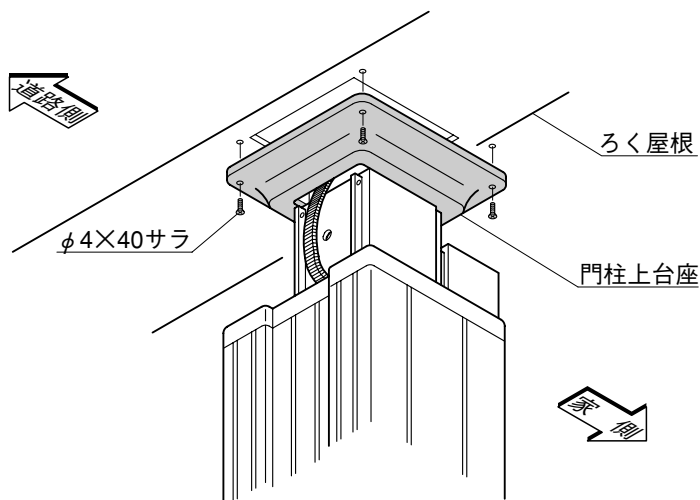
① SWソケットに接着剤を付けジャバラに取付けてください。

② 門柱上台座を上に引き上げると、門柱上台座と門柱の間に隙間ができますので、その隙間にジャバラを通してください。

③ ジャバラさし口にSWソケットを「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

A部詳細図

15. 門柱上台座の取付け

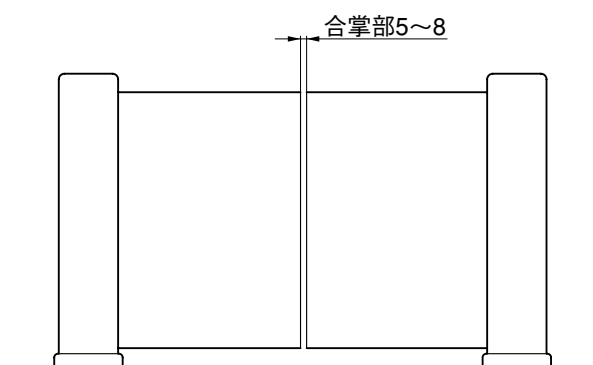


- ① 門柱上台座を上に取り上げます。
- ② ろく屋根に門柱上台座をφ4×30サラで取付けます。

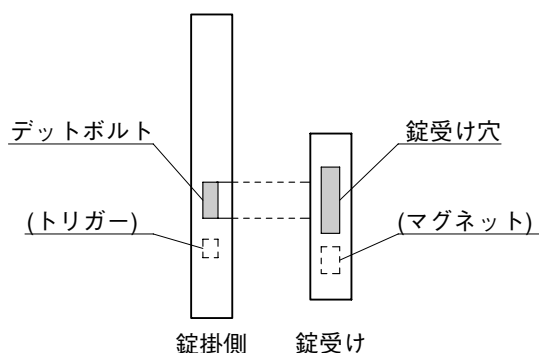
16. 施工の確認

門扉を開閉させ、動作に支障がないか確認してください。

16-1 扉の建付調整



- 電気錠は合掌部のすきまが狂ったり、扉に内外方向および上下方向のズレが発生すると正常に作動しないことがありますので、必ず調整を行ってください。
(13頁, 11. 門扉の調整方法参照)



- シリンダーキーまたはサムターンで施錠し、デットボルトが錠受けの穴に納まるか確認してください。

16-2 オートクローザーの動作確認

門扉がオートクローザーにより完全に閉まりきることを確認してください。

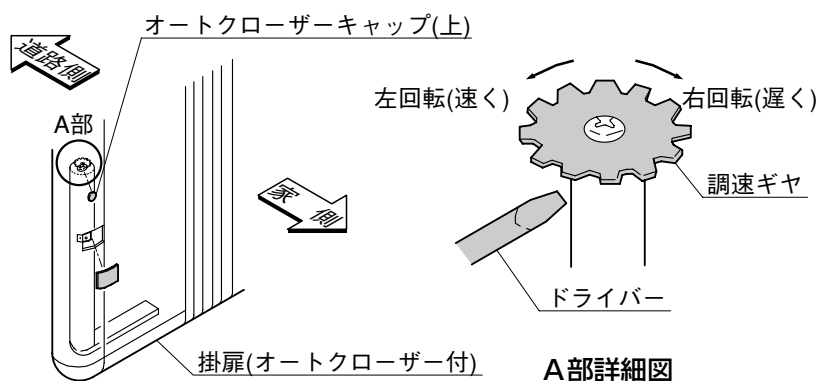
通常、工場出荷段階で両開き門扉はサイズにより調整してありますが、(片開き門扉は、現場にて調整)取付け状態により現場で調整を行ってください。

扉が完全に閉まりませんと、電気錠が正常に作動しないことがあります。

16. つづき

16-3 オートクローザーの調整方法

(1) 開閉速度の調整



① 掛扉(オートクローザー付)のオートクローザーキャップ(上)を取りはずします。

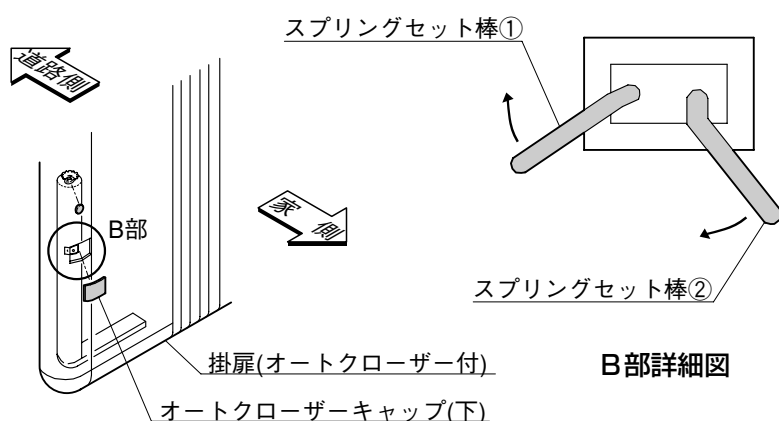
② 掛扉内部の調速ギヤをドライバー等でまわします。

●左回転…速くなります。

●右回転…遅くなります。

※詳しくは別紙オートクローザー用の取付説明書を参照ください。

(2) 閉じる力の調整



① 掛扉(オートクローザー付)のオートクローザーキャップ(下)を取りはずします。

② スプリングは必ずドアの開く方向(捲込指示ラベル矢印方向)に巻込んでください。

③ セット棒は穴に確実に差込んでから巻込みを行なってください。

④ スプリングセット座の穴にセット棒①を差込み次の穴にセット棒②を差込んでセット棒①を抜き、セット棒②を同じ方向に巻込んでください。

⑤ 巻込み数は表を参考にしてください。巻込み終了後は、必ずセットピンをしっかり差込んでください。

※詳しくは別紙オートクローザー用の取付説明書を参照ください。

閉じる力の調整について

●両開き門扉は工場出荷時にオートクローザーの調整を行なっています。

出荷時の設定巻数は下記表のようにセットしておりますが、取付け状態により現場で調整を行なってください。

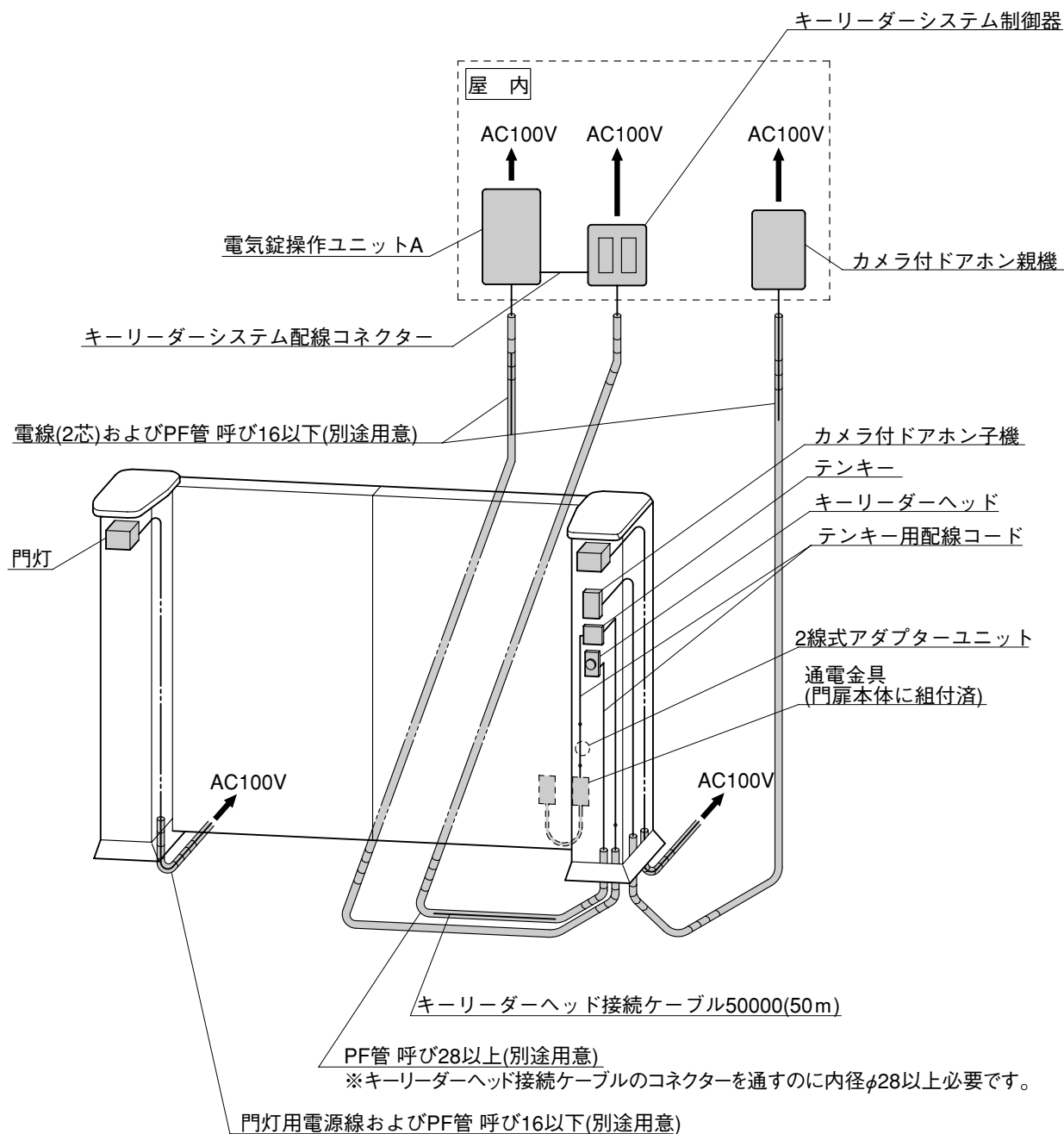
門扉サイズ	出荷時のコマ数
W-10	3 コマ
W-11	3 コマ
W-12	4 コマ
W-13	4 コマ
W-14	5 コマ
W-15	5 コマ

●片開き門扉(袖扉W-10)は組付け上の問題により調整せず出荷しております。

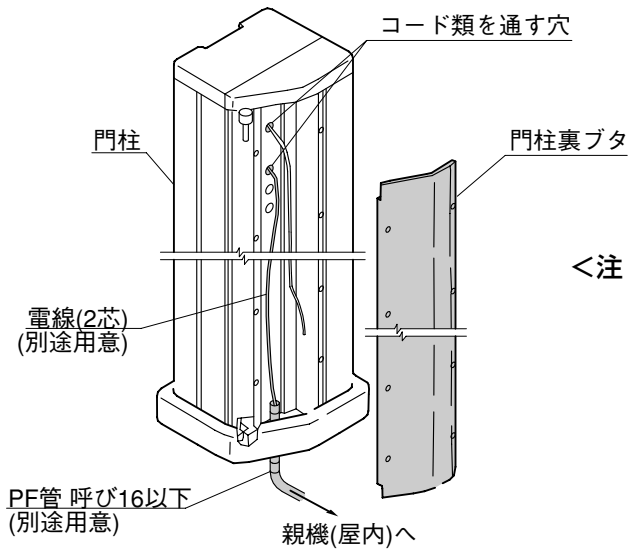
門扉組付け後、フリーの状態から3コマ巻いてください。

17.つづき

17-2 両開き仕様



18.カメラドアホンの配線および取付け

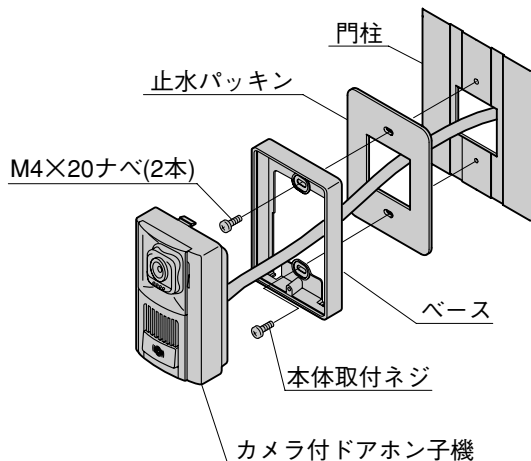


■配線可能距離

使用電線	インターホン用平行2線式ケーブル 単芯線 $\phi 0.65 \sim \phi 0.8$
配線区間	
親機～カメラ付ドアホン子機	100000(100m)以内

<注意>

- 配線には必ず平行ケーブルを使用してください。
(同軸ケーブルは使用できません。)
AC100V用電源線は接続しないでください。発火、発煙の原因になります。



- ① 門柱に通した電線をカメラ付ドアホン子機に接続し、ベースを門柱にM4×20ナベで固定してください。

<注意>

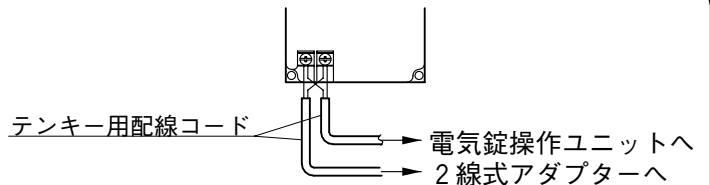
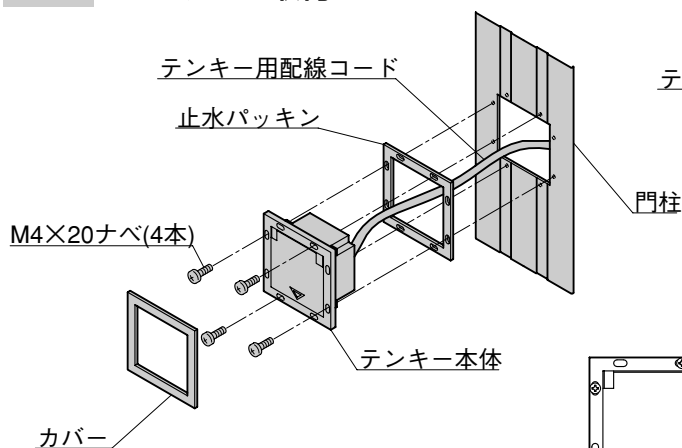
- 止水パッキンを必ず取付けてください。
- ② カメラ付ドアホン子機本体をベースに取付けてください。

<注意>

- カメラ付ドアホン子機の詳しい取付方法、使用方法是カメラ付ドアホンに付属の説明書を参照ください。

19.テンキーの取付けおよび配線

19-1 テンキーの取付け



- ① テンキーとテンキー用配線コードを接続し、門柱にM4×20ナベで固定してください。

<注意>

- 止水パッキンを必ず取付けてください。
- ② カバーをテンキー本体に取付けてください。

<注意>

- テンキーの詳しい取付方法、使用方法是テンキーに付属の説明書を参照してください。

ビス止め位置

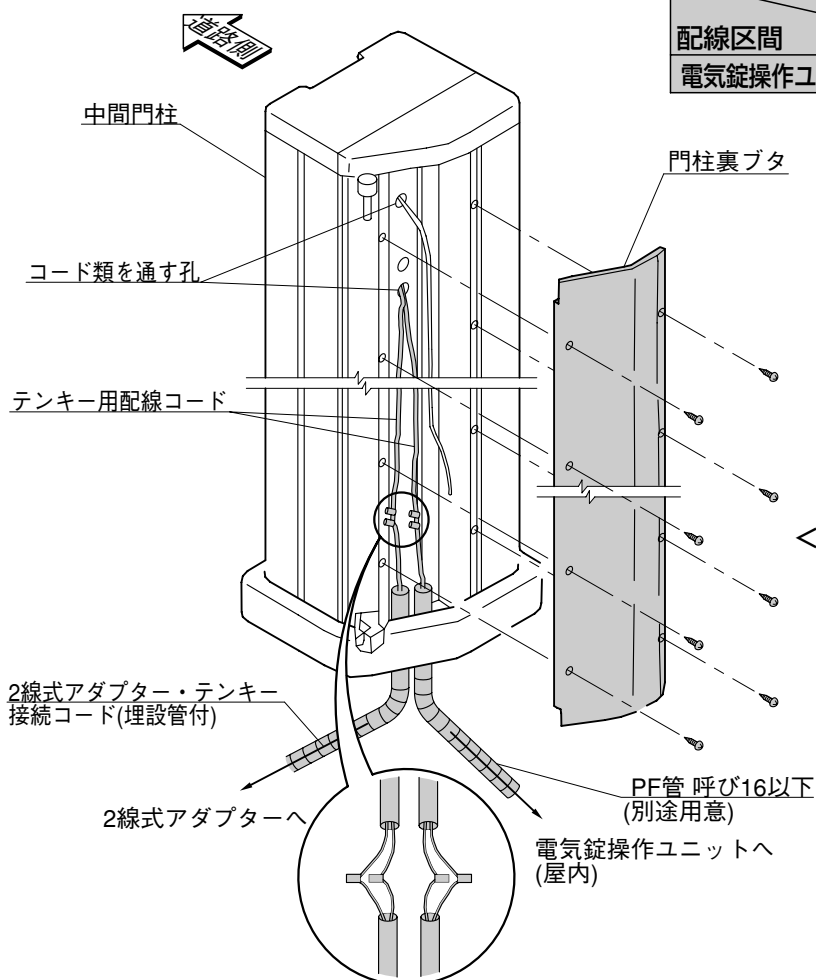
19.つづき

19-2 テンキーの配線

(1) 袖扉付きの場合

配線可能距離

使用電線	0.5mm ² または φ0.8~ 0.75mm ² または φ1.0~
配線区間	電気錠操作ユニット~テンキー
	50000(50m)

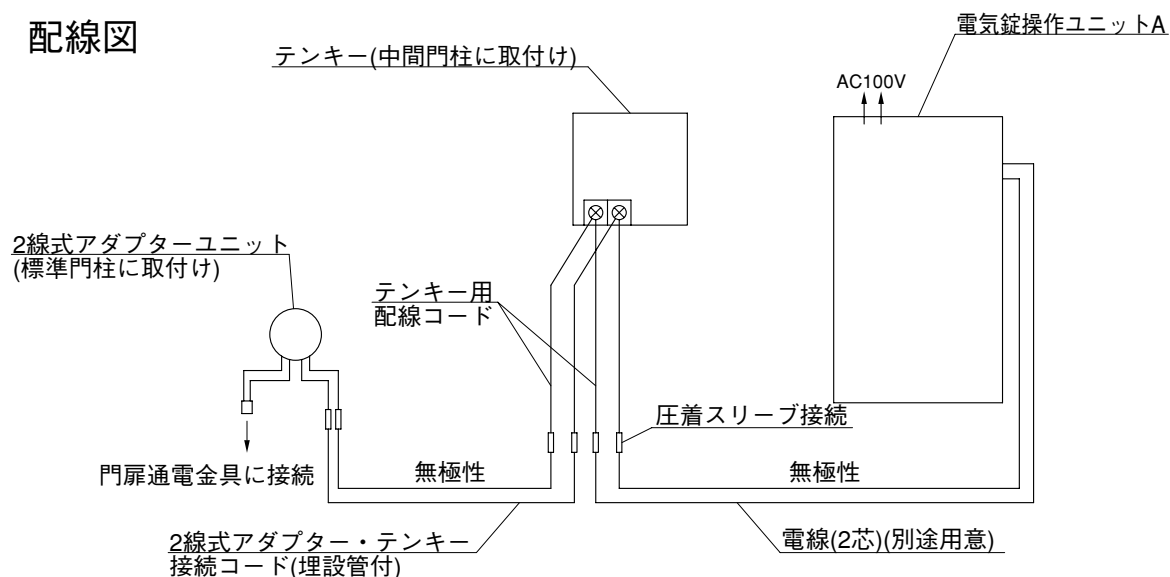


- ① 門柱に通したテンキー用配線コードを2線式アダプター・テンキー接続コードと電気錠操作ユニットからの配線に門柱内で接続してください。

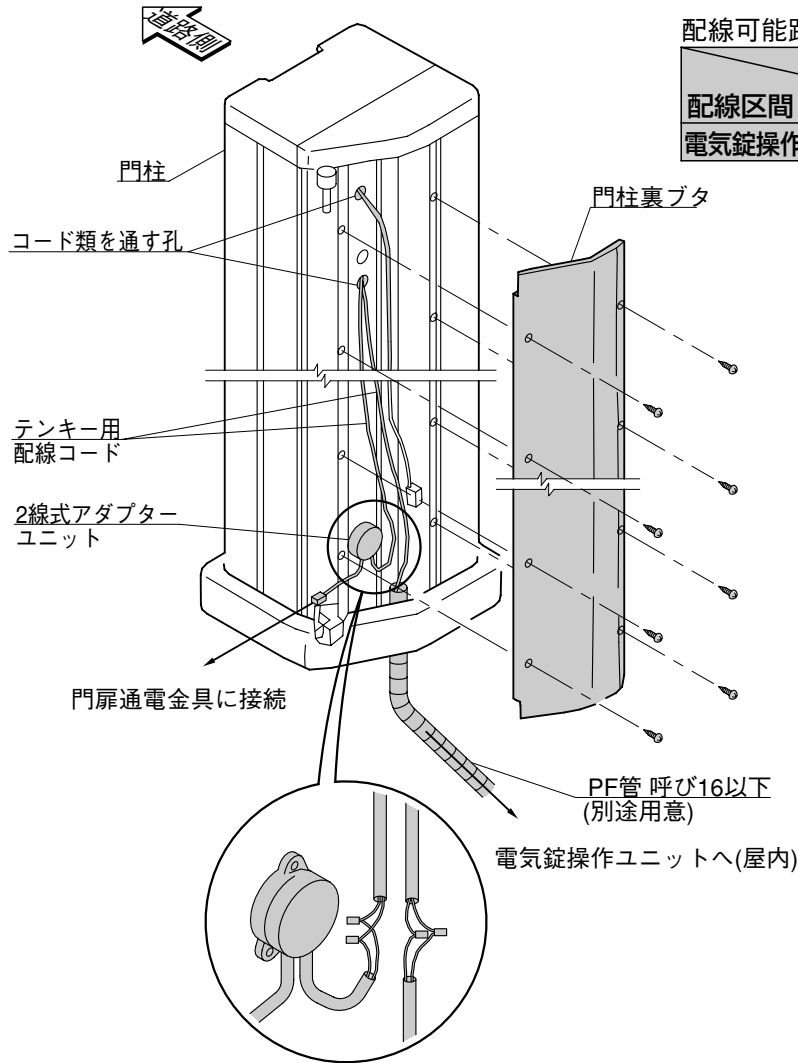
<注意>

- 接続には圧着スリーブを使用し、その後テーピングで絶縁してください。
- 電気錠操作ユニットの詳しい取付方法、使用方法是電気錠操作ユニットAに付属の説明書を参照してください。

配線図



(2)両開きの場合



配線可能距離

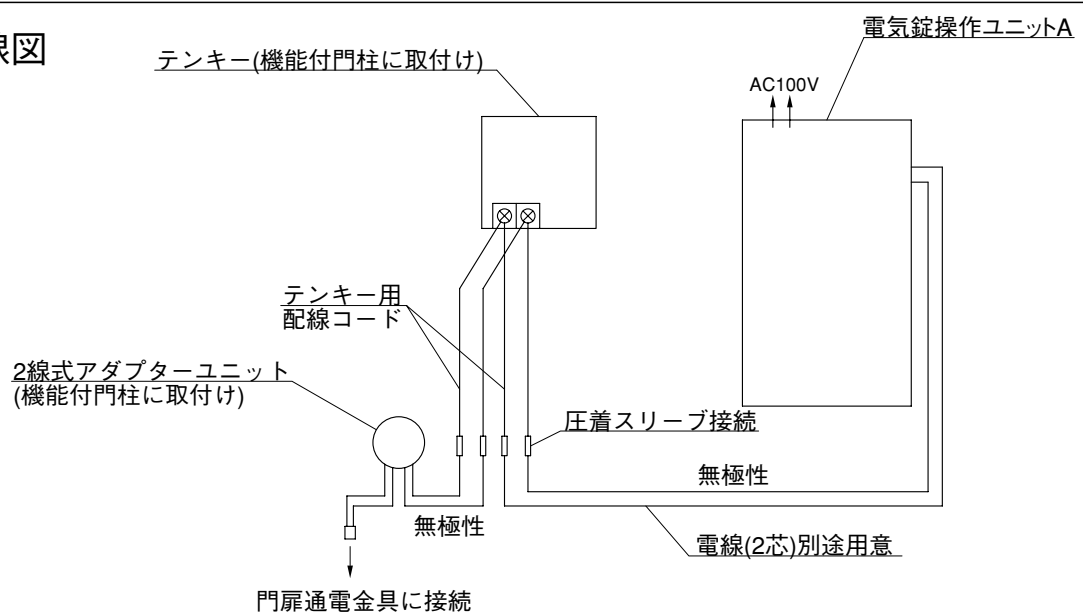
使用電線	0.5mm ² または φ0.8~
配線区間	0.75mm ² または φ1.0~
電気錠操作ユニット~テンキー	50000(50m)

- ① 門柱に通したテンキー用配線コードを2線式アダプターユニットと電気錠操作ユニットからの配線に門柱内で接続してください。

<注意>

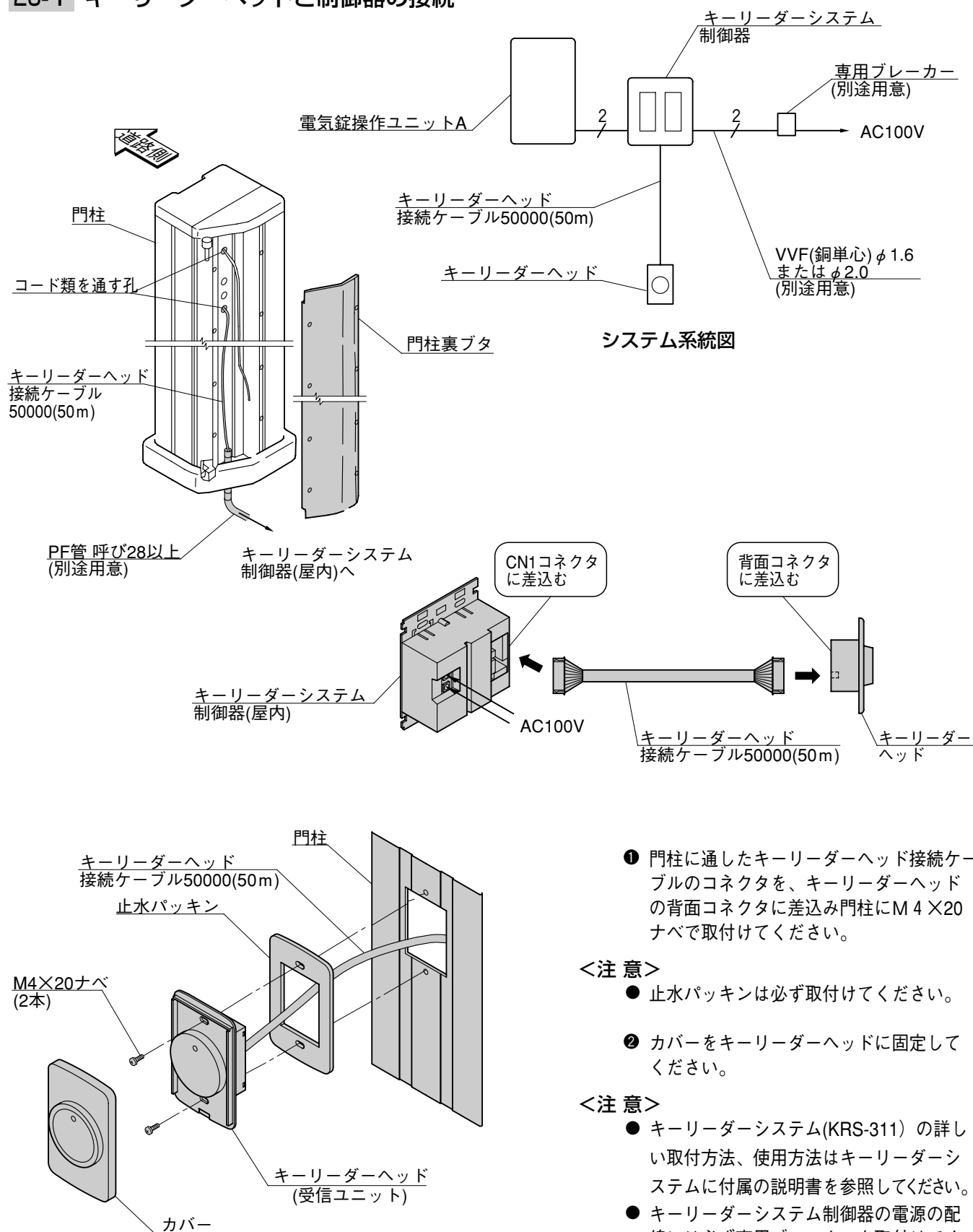
- 接続には圧着スリーブを使用し、その後テーピングで絶縁してください。
- 電気錠操作ユニットの詳しい取付方法、使用方法是電気錠操作ユニットAに付属の説明書を参照してください。

配線図



20.キーリーダーヘッドの配線および取付け

20-1 キーリーダーヘッドと制御器の接続



- ① 門柱に通したキーリーダーヘッド接続ケーブルのコネクタを、キーリーダーヘッドの背面コネクタに差込み門柱にM4×20ナベで取付けてください。

<注意>

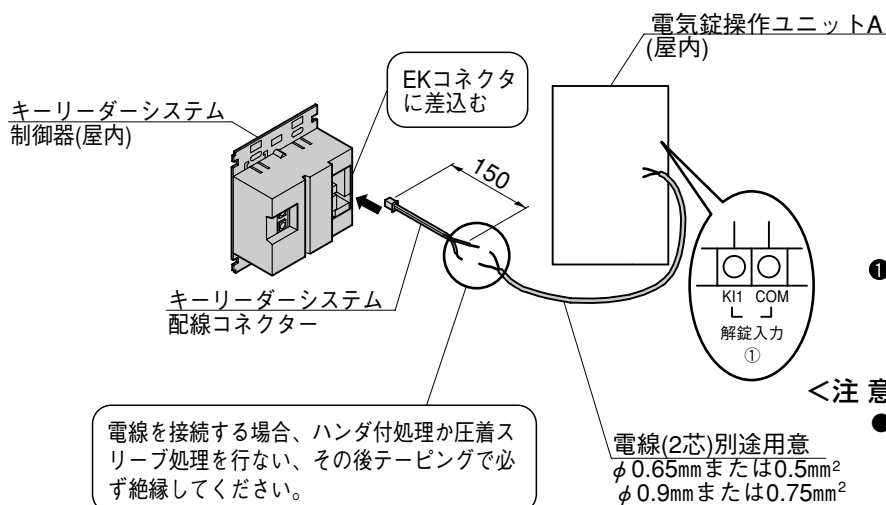
- 止水パッキンは必ず取付けてください。
- ② カバーをキーリーダーヘッドに固定してください。

<注意>

- キーリーダーシステム(KRS-311)の詳しい取付方法、使用方法是キーリーダーシステムに付属の説明書を参照してください。
- キーリーダーシステム制御器の電源の配線には必ず専用ブレーカーを取付けてください。

20.つづき

20-2 制御器と電気錠操作ユニットの接続

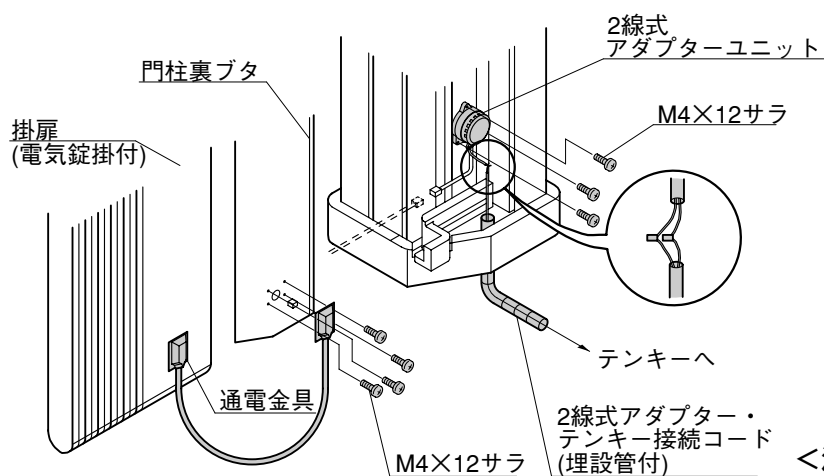


- ① キーリーダーシステム制御器と電気錠操作ユニットを電線(2芯)で接続してください。(無極性)

<注意>

- 制御器側は付属の配線コネクタを使用し、E Kコネクタに差込んでください。

21.通電金具と2線式アダプターユニットの取付けおよび接続

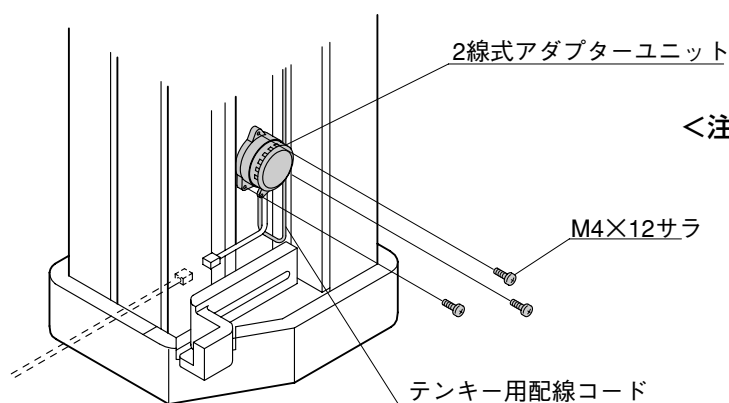


袖扉付きの場合

- ① 2線式アダプターユニットをM4×12サラスビスで固定してください。
- ② 掛扉(電気錠掛付)から出ているコードを門柱裏ボタ下部の孔に通します。
- ③ 門柱裏ボタに通電金具をM4×12サラで取付けます。(扉側の通電金具はあらかじめ取付けてあります。)
- ④ 門柱裏ボタに通したコードを2線式アダプターユニット(コネクター側)に接続します。

<注意>

- 接続には圧着スリーブを使用し、その後テーピングで絶縁してください。



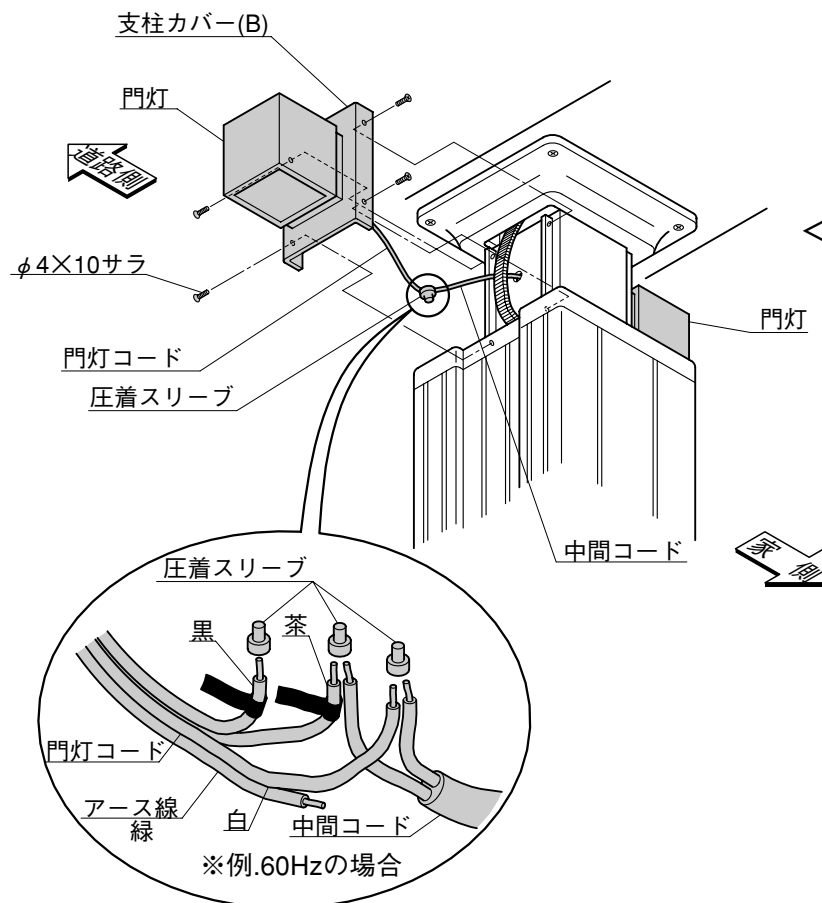
両開きの場合

<注意>

- 両開きの場合は2線式コネクター(2線側)とテンキー用配線コードを接続してください。(19頁、19.テンキーの取付けおよび配線参照)(両開きの場合、2線式アダプター・テンキー接続コードは使用しません。)
- 電線の接続には圧着スリーブを使用し、その後テーピングで絶縁してください。

22.門灯の取付けおよび配線

22-1 ろく屋根付きの場合



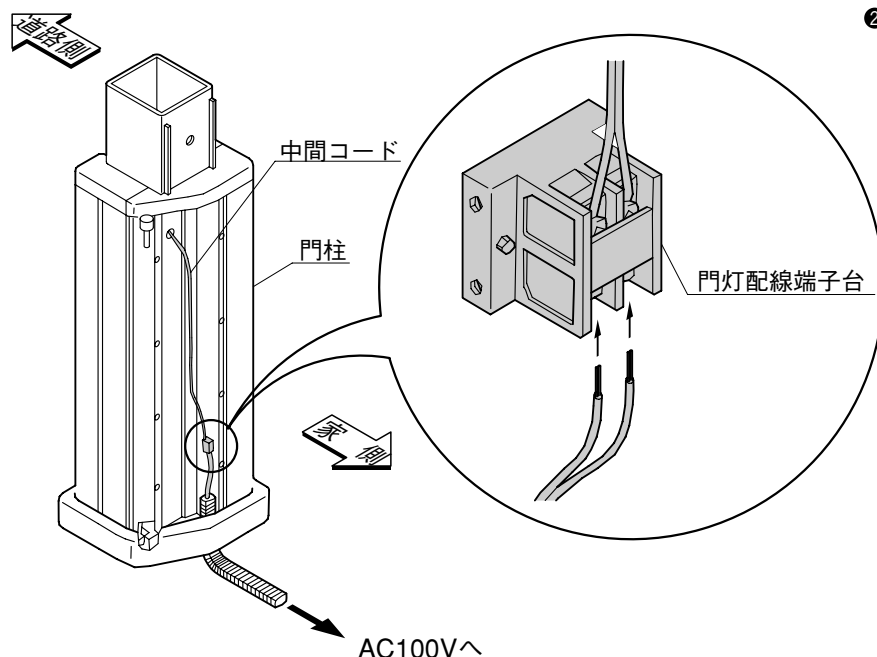
- ① 門柱から出ている中間コードと門灯から出ている門灯コードを圧着スリーブを使用して接続してください。(使用される電源周波数を確認してください。)

<注意>

- コードの接続には必ず圧着スリーブを使用しその後、テーピングで絶縁してください。
 - 使用しない線は圧着スリーブで止めてください。
 - 必ずアース工事(第三種接地工事)を行ってください。
- ② 門柱に門灯をφ4×10サラで取付けてください。

※電源周波数を確認の上、接続してください。

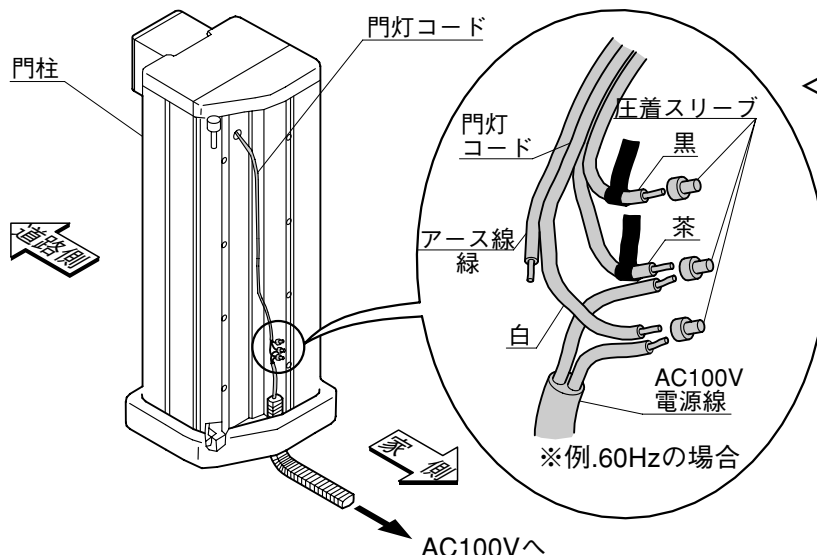
コードの色	50Hz	60Hz
黒	○	
白	○	○
茶		○



- ② 門灯配線端子台にAC100V電源線のコードを左図のように接続してください。

22.つづき

22-2 ろく屋根なしの場合



- 柱内の門灯コード(3芯)とAC100V電源線を圧着スリーブを使用して接続してください。(使用される電源周波数を確認してください。)

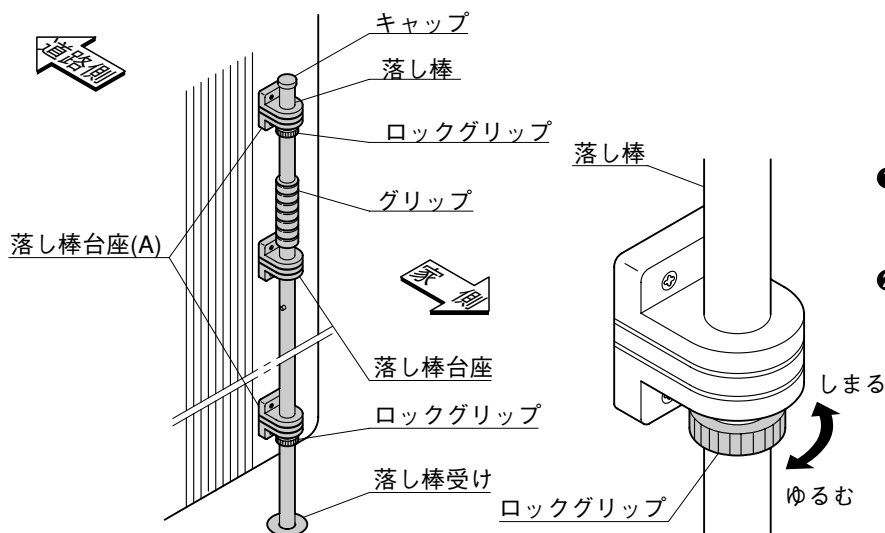
<注意>

- コードの接続には必ず圧着スリーブを使用しその後、テーピングで絶縁してください。
- 使用しない線は圧着スリーブで止めてください。
- 必ずアース工事(第三種接地工事)を行ってください。
※電源周波数を確認の上、接続してください。

コードの色	50Hz	60Hz
黒	○	
白	○	○
茶		○

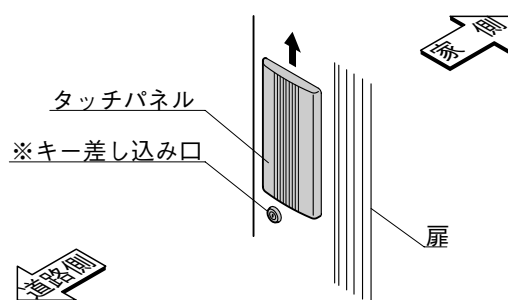
23.使用方法び接続(落とし錠,スライド式タッチパネル,オートクローザー)

23-1 落とし錠の操作



- グリップをつかみ上下にスライドさせて使用します。
- ロックグリップを左図のようにしめる方向にまわすと、落とし棒は固定されます。

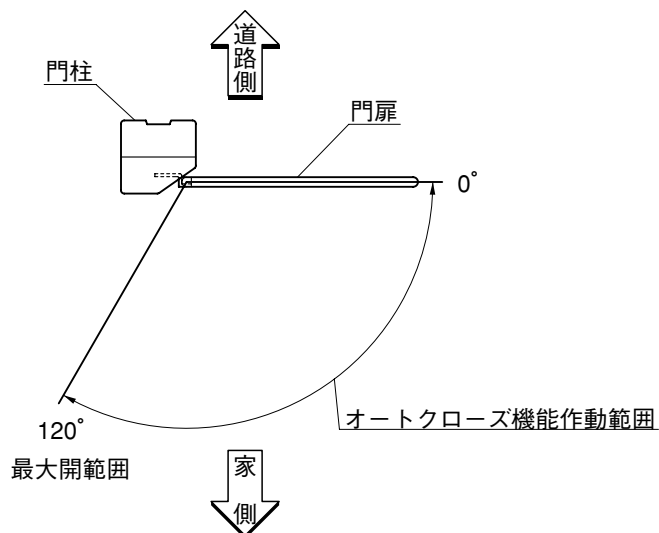
23-2 スライド式タッチパネルの操作



- 門扉道路側のタッチパネルを上下にスライドし、キーを差し込み錠の開閉をします。通常キー差し込み口はタッチパネルの中に隠れています。
※電気錠掛けが付いている門扉のみにキー差し込み口、タッチパネルのスライド機構は付加されています。

23. つづき

23-3 オートクローザー付門扉の操作



- ① オートクローザー付門扉の場合、門扉は0°～120°の間で手を離すと、自動的に閉まります。

<注意>

- 120°以上に門扉はムリに開けないでください。故障の原因となります。
- 開閉途中で、自動的に停止することはできません。
- 長時間開けておく場合は、落し棒を下げて、門扉を固定してください。

24. キーリーダーシステム制御器の機能設定方法

24-1 キーリーダーシステム制御器の各部の名称とはたらき

モード設定スイッチ

- ・モードの設定(初期設定)を行ないます。

RFキーアドレス設定スイッチ

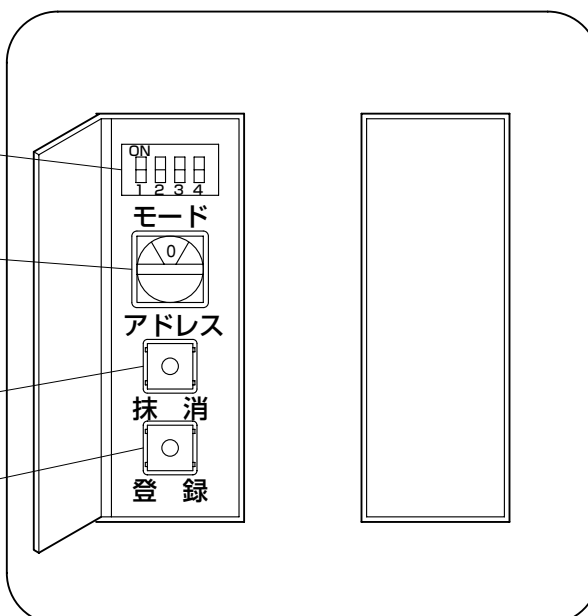
- ・登録、運用、確認、抹消等のアドレス設定を行ないます。

RFキー抹消スイッチ

- ・登録されているRFキーを抹消する場合に使用します。

RFキー登録スイッチ

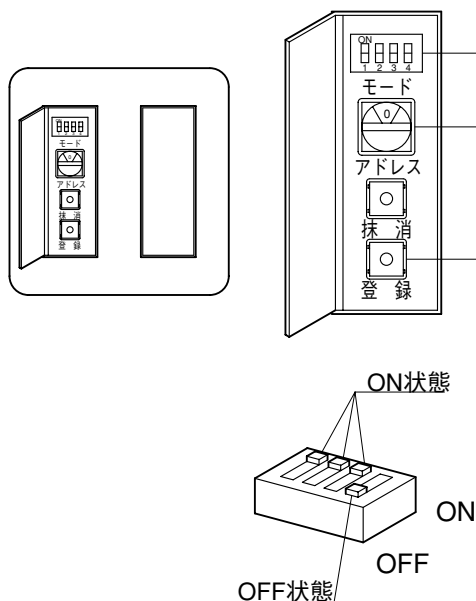
- ・RFキーを登録する場合に使用します。
(RFキーは最大8種類まで登録できます。)



24.つづき

24-2 システムの設定

(1) 制御器の初期設定

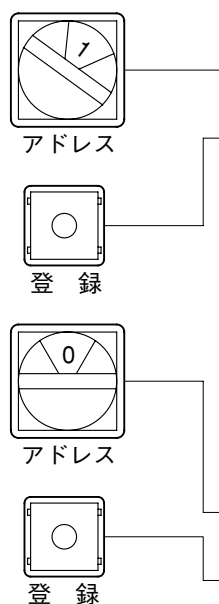


- ① 電源(専用ブレーカー)を入れてください。
- ② 前面パネルの登録部のフタを開けます。
- ③ アドレススイッチを0にします。
- ④ 「モード設定」スイッチのNo.1、No.2、No.3をONに設定してください。
「モード設定」スイッチのNo.4をOFFに設定してください。
- ⑤ 「登録」スイッチを押します。ブザーが鳴動し設定終了です。このまま運用できます。

<注意>

- 設定終了後は、モードスイッチは変更しないでください。

(2) RFキーの登録



- ① 「アドレス」を選択します。「アドレス」は1～8を選択してください。
- ② 登録スイッチを押します。
アドレス設定OKの場合、キーリーダーヘッドの「緑のランプ」が点滅し、登録するRFキーの受信待ち状態になります。
- ③ RFキーをキーリーダーヘッドに近づけ、受信させます。
(左図参照)
受信・登録完了でキーリーダーヘッドおよび制御器のブザーが1秒鳴動し、RFキーにIDコードが登録されます。
続けて他のRFキーを登録したい場合は①・②・③の作業を繰り返してください。
- ④ 「アドレス」を0に設定してください。
- ⑤ 登録スイッチを押してください。

<注意>

- すでに登録しているアドレスを選択している場合、受信時にブザーと「赤色のランプ」が4回鳴動・点滅しますので他のアドレスを選択してください。
- RFキーのIDコードはそれぞれ異なりますので、1本ずつ別々のアドレスに登録してください。
- RFキー受信待ち状態に設定後、1分以内(「緑色のランプ」が点滅中)に受信させてください。登録できなかった場合は、②・③を再度行なってください。

24. つづき

(3) R F キーの抹消



- ① 抹消したい R F キーが登録してあるアドレスを設定します
アドレスは 1～8 を設定します。
(例)「アドレス」を設定します。
(アドレス 2 の登録を抹消する場合)
- ② 抹消スイッチを押します。抹消完了で制御器のブザーが約 2 秒鳴動します。
続けて他の R F キーを抹消したい場合は①・②を繰り返してください。
- ③ 「アドレス」を 0 に設定してください。
- ④ 登録スイッチを押してください。制御器のブザーが鳴動し抹消が完了します。

(4) R F キーの再登録

R F キーの紛失や、シリンダーごとの交換による再登録、または登録をやり直したい場合は R F キーの登録・抹消の項を参照しながら下記の要領で R F キーの再登録を行なってください。

- ① 全てのアドレス(1～8)の R F キー登録を抹消してください。
- ② 必要な R F キーを全て登録してください。
- ③ 「アドレス」を 0 に設定してください。
- ④ 登録スイッチを押してください。

<注意>

- 登録には R F キーが必要です。①では新たに登録する全ての R F キーを揃えてください。

(5) R F キーの登録アドレスの確認

本器には、登録されている R F キーのアドレスを確認する機能があります。R F キーの紛失などで、登録抹消するアドレスが不明のとき、残りの R F キーのアドレスを確認し、紛失したキーのアドレスを判断することができます。



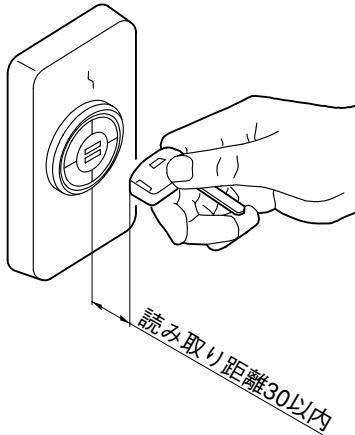
- ① アドレスを「9」に設定します。
- ② 登録スイッチを押します。
キーリーダーヘッドの「緑のランプ」が点滅し、R F キーの受信状態になります。

R F キーをキーリーダーヘッドに近づけると、そのキーの登録されているアドレスの番号の回数分だけブザーと「橙のランプ」が鳴動・点滅しますのでアドレスがわかります。登録されていない R F キーの場合、「ピッピッ」と早い間隔で 2 回ブザーが鳴動し「赤ランプ」が点滅しエラー表示します。

(例)アドレス「5」の場合、ブザーが 5 回鳴動しランプが 5 回点滅します。

(6)動作確認

RFキーをキーシリンダーヘッドに近づけてランプとブザーで照合OKの表示が出力され、電気錠が解錠することを確認してください。



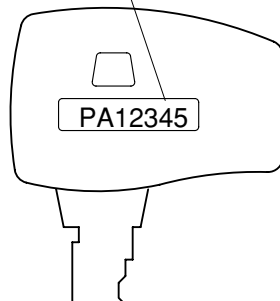
状態	ランプ・ブザー表示
RFキー照合OK	橙ランプが点灯しブザーが約1秒鳴ります
RFキー照合エラー	赤ランプが2回点滅しブザーが2回なります

<注意>

- キーリーダーシステムによる施錠はできません。

(7)RFキーの追加・シリンダーごとの交換注文

RFキー番号刻印
(図の番号は例)



RFキーの追加注文・交換用シリンダーの注文のご依頼は東洋エクステリア(株)各支店・営業所まで連絡をお願いします。注文の際は下記内容をご連絡ください。

- ① 追加の場合、RFキーに刻印してある番号
- ② RFキーの注文数
(追加・交換の費用は有償になります。)

<注意>

- 制御器に登録可能なRFキーの本数は8本です。お手持ちのRFキーと合わせて8本までしか追加できません。

キーシリンダーシステムの詳しい使用方法については、キーシリンダーシステム(KRS-311)の取扱説明書をご覧ください。

また、電気錠操作ユニット・テンキーおよびカメラ付ドアホンの使用方法については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

25. 閉戸後施錠タイマーの設定

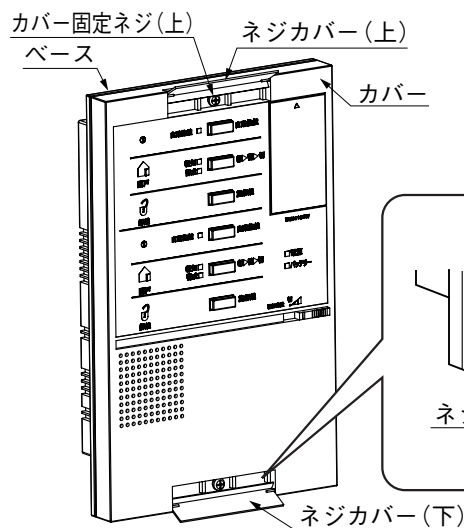


図25-2 カバー外側

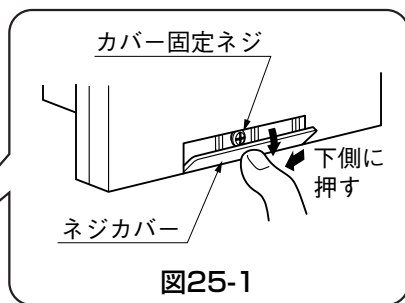


図25-1

- ① 電気錠操作ユニットのネジカバーを開けて、カバー固定ネジをゆるめてカバーを開けてください。

<ポイント>

- カバー固定ネジはネジカバーを開けたところにあります。
- ネジカバーは上下にあります。

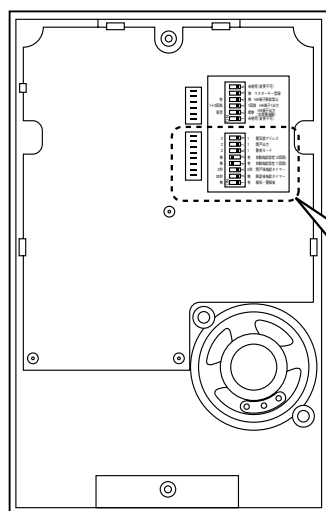


図25-3 カバー内側

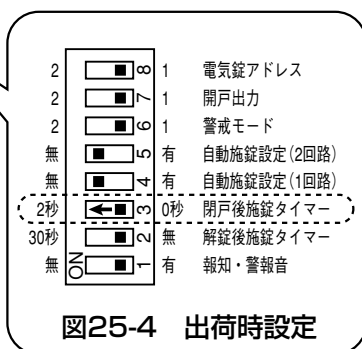


図25-4 出荷時設定

- ② カバー内側のスイッチ3番を左側(2秒)に設定してください。

<注意>

- 出荷時のスイッチ設定は、4番および5番は左に、それ以外は右に設定されています。
- 必ず「閉戸後施錠タイマー」は、「2秒」に設定してください。
オートクローザーが周囲環境温度により、開閉速度に影響を受ける為、0秒の設定だと、門扉が閉まる際にバウンドして自動施錠されないおそれがあります。

<ポイント>

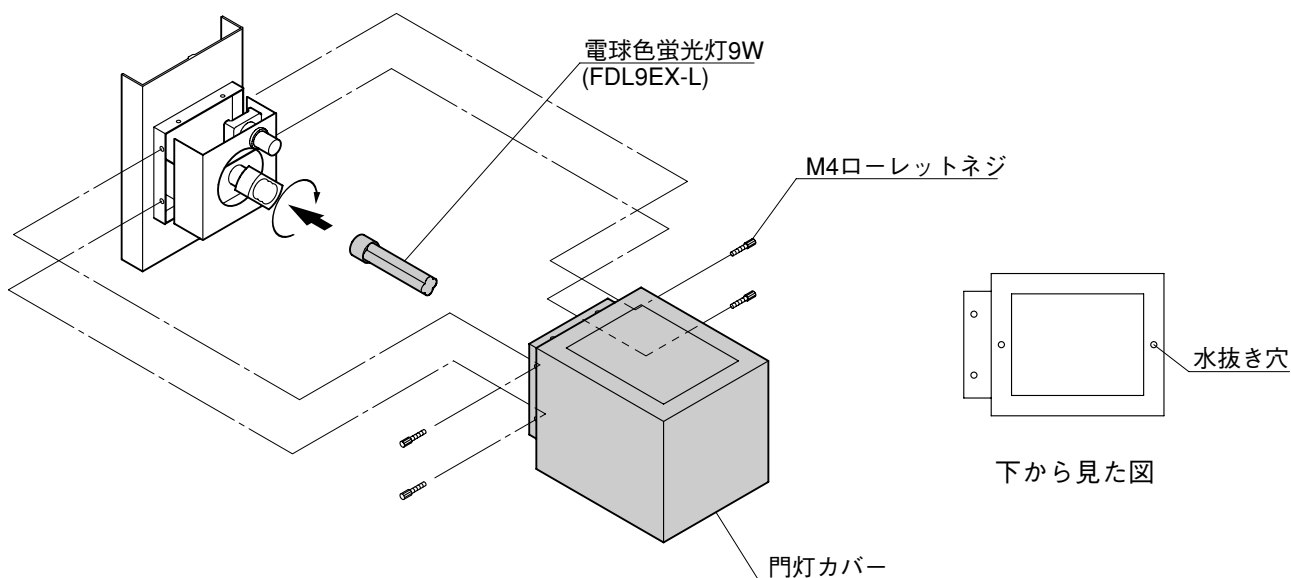
- 電気錠操作ユニットの詳しい設定方法は付属の取説を参照してください。
- ③ 電気錠操作ユニットのカバーをベースに取付けてください。カバー固定ネジを締め付け、ネジカバーを閉めてください。

26.電球の交換

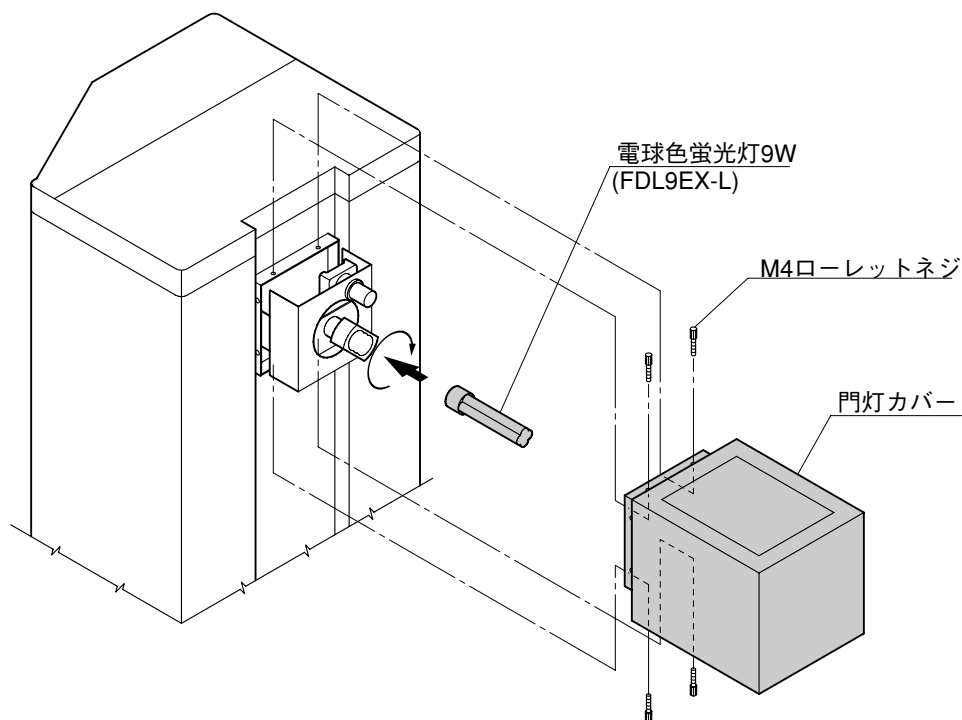
- ❶ M4 ローレットネジを外し、門灯カバーを外してください。
- ❷ 電球を照明器具側に押し付け半時計回りに回転させ外してください。
- ❸ 新しい電球を照明器具側に押し付け時計回りに回転させ取付けてください。
- ❹ 門灯カバーを取付け、M4 ローレットネジで固定してください。

<注 意>

- 水抜き穴を必ず下にして取付けてください。
- ろく屋根なしの場合はM4 ローレットネジは上下から取付けます。(下図参照)



ろく屋根付きの場合



ろく屋根なしの場合

27.仕様

キーリーダーシステム制御器

電 源	AC100V 50/60Hz
消 費 電 力	7W以下
RFキー読取距離	約30mm
RFキー登録数	最大8種類
使用周囲温度	0℃～40℃(屋内)

門灯

電 源	AC100V 50/60Hz
使 用 電 球	FDL9EX-L(電球色蛍光灯 9W)

工事店様へ

- 仕上げ後、本体についているモルタルを完全に拭き取って下さい。
硬化後拭き取りますと表面を痛めますのでご注意下さい。
- みだりに改造、変更はしないで下さい。
- 施工終了後、取付説明書は施主様にお渡し下さい。
- 御使用いただきましてありがとうございました。

施主様へ

- 月に一度程度のお手入れで美しさが長く保てます。汚れの軽い場合は水にぬらした柔らかいぞうきんで拭き取って下さい。
また汚れのひどい場合はうすめた中性洗剤で拭き取ったのち洗剤が残らないように拭き取って下さい。

取説コード

A157

AZE812429E
96-03A
200810D_1001